

2024 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）総会
議事次第

日 程：2025 年 3 月 14 日（金） 13:30～16:30

会 場：オンライン会議

開会挨拶 オープンアクセスリポジトリ推進協会会長
 名古屋大学図書館副館長 浅川 晋

議案第 1 号	2025 年度会長選出について （協議）
議案第 2 号	2025 年度監事選出について （協議）
議案第 3 号	2025 年度運営委員会委員について （協議）
議案第 4 号	規程改正について （協議）
報告 1	2024 年度活動について （報告）
議案第 5 号	2025 年度活動計画について （協議）
報告 2	2024 年度決算について （経過報告）
議案第 6 号	2025 年度予算について （協議）
報告 3	JAIRO Cloud 共同運営本部の活動について （報告）

意見交換 JPCOAR の今後の体制・活動について（意見交換）

閉会

議案資料：

資料 1	2025 年度 JPCOAR 会長（案）
資料 2	2025 年度 JPCOAR 監事（案）
資料 3	2025 年度 JPCOAR 運営委員会委員（案）
資料 4	規則改正（案）
資料 5	2025 年度 JPCOAR 活動計画（案）
資料 6	2025 年度 JPCOAR 予算（案）

報告資料：

報告資料 1	2024 年度 JPCOAR 活動報告
報告資料 2	2024 年度 JPCOAR 決算（経過報告）
報告資料 3-1	JAIRO Cloud 共同運営本部活動報告
報告資料 3-2	JAIRO Cloud の今後の方向性について
報告資料 3-3	国立情報学研究所からの報告

参考資料 1	2024 年度 JPCOAR 総会 議案・報告説明
参考資料 2-1	オープンアクセスリポジトリ推進協会会則
参考資料 2-2	オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規程
参考資料 2-3	オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程（2021 年 4 月 1 日施行）
参考資料 2-4	JAIRO Cloud を共同リポジトリとして利用する場合の会費等に関する細則
参考資料 2-5	オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程第 6 条に係る申合せ
参考資料 2-6	JAIRO Cloud 共同運営本部規程
参考資料 2-7	オープンアクセスリポジトリ推進協会と国立情報学研究所による JAIRO Cloud 共同運営の役割分担についての申合せ
参考資料 2-8	オープンアクセスリポジトリ推進協会作業部会設置規程
参考資料 2-9	通常総会の電子的な通信並びに記録手段を用いた開催に関する細則
参考資料 2-10	次期活動方針検討タスクフォース設置に関する申合せ
参考資料 3-1	オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)活動方針（2022-2026 年）
参考資料 3-2	2024 年度 JPCOAR 活動計画

オープンアクセスリポジトリ推進協会会長（案）

運営委員会から、以下のとおり推薦します。

名古屋大学附属図書館

（任期：2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）

以上

オープンアクセスリポジトリ推進協会監事（案）

運営委員会から、以下のとおり推薦します。

東京外国語大学附属図書館

会津大学附属図書館

（任期：2025 年 7 月 1 日～2026 年 6 月 30 日）

以上

2025 年 3 月 14 日現在

2025 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)運営委員会委員（案）

氏 名		所 属 機 関 ・ 役 職	備考
1	石津 朋之	筑波大学学術情報部情報企画課リポジトリ係長	継続
2	片岡 朋子	お茶の水女子大学図書・情報課係長（利用支援担当）	継続
3	高橋 菜奈子	新潟大学学術情報部長	継続
4	次良丸 章	東海国立大学機構名古屋大学附属図書館事務部長	継続
5	杉田 茂樹	京都大学附属図書館事務部長	継続
6	野中 雄司	京都大学附属図書館研究支援課長	継続
7	鈴木 雅子	九州大学附属図書館事務部長	継続
8	堅田 浩明	宮崎県立看護大学事務局総務課内部監査・協働推進対策監	（新規）
9	阿部 潤也	東京歯科大学図書課長	（新規）
10	折戸 晶子	明治大学図書館総務事務長	継続
11	佐藤 翔	同志社大学免許資格課程センター教授	継続
12	甲斐 尚人	大阪大学 D3 センター 准教授	（新規）
13	林 正治	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター 特任准教授	継続
14	吉田 幸苗	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長	継続

（任期：2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）

※継続予定の委員が人事異動等により委員を継続することが困難な場合、2025 年 4 月初旬までに文書による臨時総会で承認を得ることにより、後任委員を決定することとする。

氏 名		所 属 機 関 ・ 役 職	備考
1	山村 徹	石川県立看護大学附属図書館	（退任）
2	加川 みどり	神戸松蔭女子学院大学学術情報センター事務課長	（退任）
3	南山 泰之	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター 特任助教	（退任）

規程改正について

1. 対象規程

オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規程

2. 改正趣旨

運営委員会成立の定足数及び表決についての条文を、新たに追加する。

3. 新旧対照表

新	旧
(略) <u>(定足数及び表決)</u> <u>第7条 運営委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。</u> <u>2 運営委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決する。</u>	(略) (新設)
(庶務) <u>第8条</u> (略)	(庶務) <u>第7条</u> (略)
(雑則) <u>第9条</u> (略)	(雑則) <u>第8条</u> (略)

4. 改正後

オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規程

平成28年7月27日

制定

(設置)

第1条 オープンアクセスリポジトリ推進協会会則（以下「会則」という。）第8条の規定に基づき、オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 運営委員会は、オープンアクセスリポジトリ推進協会（以下「協会」という。）の円滑な運営のため、会則第4条に定める事業を企画・立案し、実施することを目的とする。

(委員)

第3条 運営委員会は、協会会員である施設等の職員15名以内により組織する。

2 運営委員会の委員は、会則第10条の総会（以下「総会」という。）において決し、会則第6条第4項の者が委嘱する。

3 総会で必要と認められた場合、協会会員である施設等の職員以外の者を委員とすることができる。なお、この場合の委員も第1項に定める定員に含むものとする。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は1年とし、期間は4月1日から翌年3月31日までとする。ただし、再任を妨げない。

(委員長)

第5条 運営委員会に委員長を置く。

2 委員長は委員の互選により選出する。なお、再任を妨げない。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を行う。

(作業部会)

第6条 運営委員会は、必要に応じて作業部会を設置することができる。

2 作業部会は次の各号に掲げる者をもって組織する。

一 運営委員会の委員

二 前号に該当しない協会会員である施設等の職員

三 その他、運営委員会が必要と認められた者

3 作業部会に主査を置く。主査は、前項第1号から第3号の者のうちの一をもって充てる。

4 主査及び作業部会員は、委員長が委嘱する。

5 作業部会員の任期は1年とし、期間は4月1日から翌年3月31日までとする。ただし、再任を妨げない。

6 作業部会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

(定足数及び表決)

第7条 運営委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 運営委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決する。

(庶務)

第8条 運営委員会の庶務は、協会の事務局において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成28年7月27日から施行する。

附 則

この規程は、2023年5月18日から施行する。

附 則

この規程は、2025年4月1日から施行する。

2025 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会活動計画（案）

2025 年 3 月 14 日

総 会 提 案

本協会は設立以来、構成機関におけるオープンアクセスおよびオープンサイエンス振興のための互助組織として、さまざまな活動を展開し「リポジトリを通じた知の発信システムの構築」に取り組んできた。

現在最大の課題として、政府のいわゆる即時オープンアクセス方針への対応がある。科研費等競争的資金の成果論文およびその根拠データの即時オープンアクセスの義務化が 2025 年度から遂に始まる。政府からは、論文等公開のためのプラットフォームとして機関リポジトリに大きな期待が寄せられており、本協会の 700 を超える会員機関各々が、所属研究者の理解促進、対象論文の捕捉、効率的なリポジトリ運営の実現などの課題に取り組んでいく必要がある。協会としても、最重点課題として、昨年度に引き続き会員機関間の知見、ノウハウの増進・共有につとめていきたい。

即時オープンアクセス推進の前提として、JAIRO Cloud を使用する多くの会員機関にとってその安定的稼働はひとつの大きな鍵となる。協会は、昨年度設置した JAIRO Cloud 共同運営本部、JAIRO Cloud 作業部会を中心として、NII との密な連携の下、JAIRO Cloud サービスを安定的に共同運営する体制を固め、併せて、利用機関のための研修会や交流機会増進を通じ、コミュニティの活性化につとめる。

さて、即時オープンアクセス政策の背景に G7 科学技術大臣会合共同声明があることにも見られるとおり、オープンサイエンス時代にふさわしい 学術情報流通のありかたの探求はもとより国際的課題である。情勢変化は非常に速く、国際動向の把握、ともにオープンアクセスに取り組む海外の大学・研究機関の仲間との連携はますます重要になってきている。日本は、5 月に開催される国際オープンアクセスリポジトリ連合（COAR）年次大会のホスト国となることとなった。本協会は NII とともに共催機関として同大会を支援する予定である。会員機関各位におかれても、積極的な参加・交流により同大会を意義あるものとするとともに、国際動向把握の好機としていただきたい。

最後に、本協会は「活動方針（2022-2026 年）」に則って活動してきているが、活動方針制定時には予見し得なかった政策的動きや AI をはじめとした技術等が大きく進んでおり、こうした学術情報流通をとりまく情勢の急速な変化・複雑化に対応するため、運営委員会は新たな戦略立案のためのタスクフォースを設置することとした。現活動方針の更新、作業部会の再編などを視野に入れ、将来に向けた検討をすすめる予定である。

以上を、2025 年度の協会活動の 計画骨子とする。各作業部会・タスクフォース単位の活動計画について別紙に付す。会員機関選出の運営委員、作業部会員のみならず、すべての会員機関の諸活動への主体的な参画を期待する。

(別紙)

1. 会員機関相互の情報・ノウハウ共有の強化と人材育成	
コミュニティ・グループ	活動計画
① 広報・普及作業部会	
(ア) コミュニティ内の情報共有	機関リポジトリコミュニティの活性化のためにコミュニティツールの企画・運用管理を行い、利活用を促進する。
(イ) JPCOAR ウェブサイトのリニューアル及び運営	JPCOAR ウェブサイトのリニューアルを実施し、その後の運用も中心的に担当する。プラットフォーム、構成、デザインを一新し、さらなる発信、情報共有が可能となるようなサイトを目指す。
(ウ) ウェブマガジンの運営	オープンアクセスや学術情報流通に関する実践的・先進的な情報をわかりやすく編集し、JPCOAR 会員および学術情報流通に関わる人々にとって、有益かつ励みとなる記事を発行していく。
② イベント運営作業部会	
(ア) 研修の企画と実施	会員機関の機関リポジトリ担当者が必要な研鑽を積めるような研修・セミナーの企画と実施を行う。特に今年度は対面での研修企画検討を行い、可能な範囲で実施する。
2. 会員機関が公開するコンテンツの多様化と利活用	
コンテンツ・グループ	活動計画
① コンテンツ流通促進作業部会	
(ア) JPCOAR スキーマ	関係機関と連携しながら、JPCOAR スキーマ Version 2.0 の普及活動およびデジタルアーカイブのカタログ情報の流通に向けた対応を進める。また、各機関に対する Version 2.0 適用支援を継続しながら、語彙の追加等改訂に向けた検討も進める。
(イ) DOI・ライセンス	即時オープンアクセス等の情勢に対応した、学術成果の円滑な普及・利活用を促進する。
(ウ) SCPJ	2024 年度の成果物である新 SCPJ と著作権ポリシー策定ガイドラインについて、学協会への広報を行い、ポリシーの検討と提供を促す。 データメンテナンスの効率化のため、機関リポジトリ担当者との協力体制について検討する。

② 研究データ作業部会	
(ア) RDM 教材作成	・ 現行の RDM 教材の利活用拡大に繋がる事業を検討・実施するとともに、学認 LMS 上の RDM 教材の内容・運用面について協力する。
(イ) RDM 事例形成	・ 2024 年度に実施した機関向け RDM アンケート調査や、IRDB データの分析結果を踏まえて、会員機関による RDM に役立つ事業を検討し、実施する。 ・ 2024 年度に作成・執筆したユースケース、マニュアル類の整備、公開を進める。 ・ AXIES-RDM 部会等の外部機関と連携しながら、RDM 事例形成に繋がる事業を展開する。

3. リポジトリシステムの維持・発展の促進	
システム (JAIRO Cloud) ・グループ	活動計画
① システム開発・連携作業部会	
(ア) ワークフロー開発	需要に基づくコンテンツ流通の促進とワークフローの軽減を目的に必要な調査・分析を行い、新しいワークフローの提案、必要な機能の開発協力を行う。
(イ) コミュニティ・フレームワーク	JPCOAR として指標としての利用を検討する。COAR のフレームワーク見直しに貢献する。次のアンケート調査に向けての準備を進める。
(ウ) リポジトリ活用のための連携	機関リポジトリ活用に向けたシステム連携の在り方について検討を行う。
② JAIRO Cloud 作業部会	
(ア) JAIRO Cloud コミュニティの構築	・ 利用機関同士の情報交換ツールを見直すとともに、各機関の主体的な参画とコミュニティ内の相互扶助を促進する。 ・ JAIRO Cloud に関する利用機関の意見・要望を取りまとめ、定期的に共同運営本部に報告するとともに利用機関に進捗を逐次共有する。
(イ) 研修・説明会・情報発信	・ 操作説明会の開催や教材の作成等により、コミュニティ全体の習熟度の向上を図る。 ・ JAIRO Cloud に関して利用機関が必要な情報に確実にアクセスできる環境を整える。

(ウ) 持続的なサポート体制の構築	・ JAIRO Cloud の利用に関する問い合わせツールを見直し、利用機関側・運営側双方にとってよりよい運営体制の構築を目指す。
4. 協会活動全体	
次期活動方針検討タスクフォース	
次期活動方針の立案	即時 OA 政策等、新たに生じている課題に的確に対応するため、現活動方針の更新や作業部会体制の再編などを視野に入れ、今後の活動の方向性について検討・立案を行う。
COAR2025 地域組織委員会	
COAR Conference 2025 in 東京 大会の開催	大会開催を通じて、リポジトリを取り巻く国際動向を会員機関に向けて直接フィードバックする。また、COAR と JPCOAR の連携・協力関係を強める。さらに、会議運営を通じ国際的な議論ができる人材育成を図る。
企画・調査担当	
作業部会全体を横断する企画の マネジメント	即時 OA 義務化支援、関連団体会合等への出展、図書館総合展でのフォーラム開催等、JPCOAR 全体で取り組む必要のある事業において、作業部会間の連携を促進することで、充実した企画の円滑な遂行を図る。

2025 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）予算案

< 収入の部 >

科目	2025年度 予算額(A)	2024年度 決算見込額(B)	増▲減 (A)-(B)	2024年度 当初予算額	備考
1. 会費	23,478,000	23,504,000	▲ 26,000	22,464,000	2025年度会員機関数: 777(1月現在) 区分A: 693 x 2.6 万円 = 18,018 千円 区分B: 42 x 5.2 万円 = 2,184 千円 区分C: 42 x 7.8 万円 = 3,276 千円
計	23,478,000	23,504,000	▲ 26,000	22,464,000	

< 支出の部 >

科目	2025年度 予算額(C)	2024年度 決算見込額(D)	増▲減 (C)-(D)	2024年度 当初予算額(E)	備考
1. 事務局経費	5,660,000	5,374,274	285,726	5,125,000	
人件費	4,700,000	4,734,121	▲ 34,121	4,125,000	事務補佐員
運営費	960,000	640,153	319,847	1,000,000	ウェブサイト管理、チャットボット経費、 Google_Workspaceライセンス、jpcoar.org ドメイン年間維持管理
2. 運営委員会等経費	150,000	171,100	▲ 21,100	30,000	
運営委員活動費	150,000	171,100	▲ 21,100	30,000	運営委員旅費
JC共同運営本部活動費	0	0	0	0	
監事監査費	0	0	0	0	
3. 総会経費	600,000	540,460	59,540	450,000	
総会会場費	0	0	0	0	
総会運営費	400,000	385,000	15,000	400,000	オンライン配信費
総会旅費	200,000	155,460	44,540	50,000	会長・委員長旅費
4. 図書館総合展出展	1,150,000	1,077,450	72,550	900,000	
総合展会場費	150,000	137,500	12,500	400,000	
総合展運営費	1,000,000	939,950	60,050	500,000	オンライン配信費
5. 事業推進経費	13,026,000	13,919,256	▲ 893,256	13,659,000	
広報・普及作業部会	786,000	143,990	642,010	420,000	ウェブマガジン運営費・取材費・文字起こし費、 ウェブサイトリニューアル
イベント運営作業部会	240,000	319,000	▲ 79,000	800,000	オンラインイベント配信委託経費
コンテンツ流通促進作業部会	8,000	1,561,120	▲ 1,553,120	1,000,000	JPCOARスキーマ編集アプリケーション
研究データ作業部会	250,000	568,420	▲ 318,420	950,000	データ分析、旅費（COAR年次総会、図書館総合展、AXIES年次総会ほか）
JAIR Cloud作業部会	450,000	764,980	▲ 314,980	600,000	旅費（利用機関ヒアリング、打合せ等）
システム開発・連携作業部会	0	0	0	0	
オープンアクセス推進検討TF	0	866	▲ 866	40,000	
次期活動方針検討TF	200,000	0	200,000	0	調査・委員打合せ旅費
調査等事業推進経費	5,592,000	6,021,880	▲ 429,880	5,025,000	出向職員旅費、事務協力費
窓口業務委託経費	5,500,000	4,539,000	961,000	4,824,000	JPCOAR/JAIR Cloud問合せ対応等
6. 国際連携活動費	2,892,000	2,513,294	378,706	2,300,000	
海外派遣旅費	500,000	860,319	▲ 360,319	1,000,000	国際会議出席
COAR2025地域組織委員旅費	666,000	281,206	384,794	0	
COAR2025運営委員旅費	326,000	0	326,000	0	
COAR会費	1,400,000	1,371,769	28,231	1,300,000	2025年COAR年会費 €8,100
計	23,478,000	23,595,834	▲ 117,834	22,464,000	

※支出のうち不足額については、国立情報学研究所予算からの支援により支出する。

JAIR Cloud利用料金

< 収入の部 >

科目	2025年度 暫定予算額(E)	2024年度 決算見込額(F)	増▲減 (E)-(F)	2024年度 当初予算額	備考
JAIR Cloud利用料金	93,764,000	90,024,000	3,740,000	82,896,000	
計	93,764,000	90,024,000	3,740,000	82,896,000	

< 支出の部 >

科目	2025年度 暫定予算額(G)	2024年度 決算見込額(H)	増▲減 (G)-(H)	2024年度 当初予算額	備考
JAIR Cloud運用費	93,764,000	90,024,000	3,740,000	82,896,000	
計	93,764,000	90,024,000	3,740,000	82,896,000	

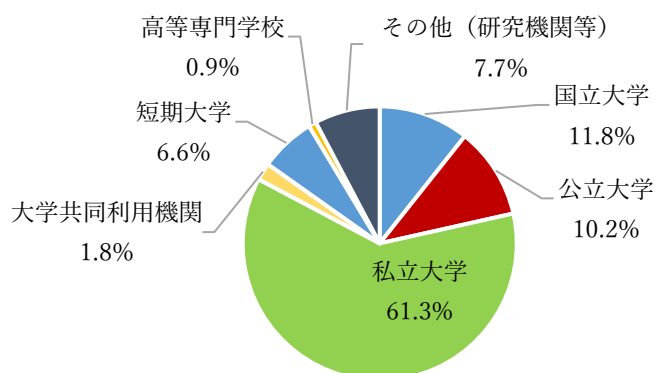
2024 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）活動報告

1. 組織・体制

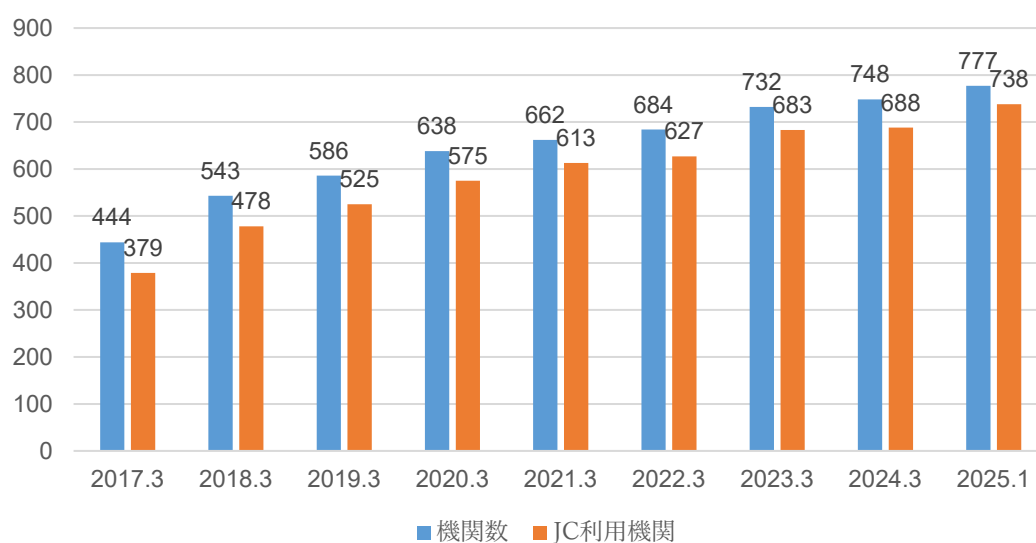
(1) 会員機関状況（2025 年 1 月 31 日現在）

種 別	機 関 数	JAIRO Cloud 利用機関
国立大学	83	72
公立大学	84	83
私立大学	476	458
大学共同利用機関	16	12
短期大学	51	49
高等専門学校	7	7
その他（研究機関等）	60	57
合計	777	738

(2) 会員機関内訳



(3) 会員機関数推移



(4) 運営体制

会長	名古屋大学（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）
監事	東京外国語大学（2024 年 7 月 1 日～2025 年 6 月 30 日） 神戸市外国語大学（2024 年 7 月 1 日～2025 年 6 月 30 日）
運営委員	14 名（会員機関選出）
JAIRO Cloud 共同運営本部	12 名（会員機関選出 9 名、NII 3 名）
出向職員	1 名（会員機関より）
作業部会員	56 名（会員機関より）
COAR2025 地域組織委員会	11 名（会員機関より 9 名、出向職員 1 名、NII 1 名）
事務局	2 名（JPCOAR 有期雇用 1 名、NII から支援 1 名）

2. 会議等

(1) 総会

- ・ 2024 年度通常総会 オンライン会議・投票（2025 年 3 月 14 日）

(2) 監事監査

- ・ 2024 年度決算の監査実施（2025 年 5 月予定）

(3) 運営委員会

第 25 回（2024 年 6 月 17 日）

- ・ 2023 年度総会追加議案の審議結果について
- ・ 2023 年度決算および監査報告について
- ・ 2024 年度運営委員会・作業部会（TF）・事務局の体制について
- ・ 2024 年度予算及び作業部会等の活動計画について
- ・ JAIRO Cloud 共同運営本部設立及び関連規程について
- ・ 学協会著作権ポリシーデータベースの今後について
- ・ 第 26 回図書館総合展出展予定について
- ・ オープンアクセス推進検討タスクフォース設置に関する申合せについて
- ・ その他報告事項

第 26 回（2024 年 10 月 17 日）

- ・ オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規程の一部改正について
- ・ JPCOAR Community ML の見直しについて
- ・ JAIRO Cloud 共同運営本部報告
- ・ 各作業部会・TF 活動中間報告
- ・ その他報告
 - ・ 図書館総合展について
 - ・ COAR Annual Conference 2025 について

- ・ 2024 年度 JPCOAR 予算執行状況

第 27 回（2025 年 2 月 5 日）

- ・ 規程改正について
- ・ JAIRO Crawler-List の運用について
- ・ JAIRO Cloud 共同運営本部報告
- ・ 各作業部会・TF 活動報告
- ・ COAR Annual Conference 2025 について
- ・ 2024 年度 JPCOAR 予算執行状況
- ・ 2025 年度活動計画及び予算について
- ・ 2024 年度 JPCOAR 総会議事について
- ・ 2025 年度 NII へのオープンアクセスリポジトリ推進協会への活動支援について

(4) JAIRO Cloud 共同運営本部設置

2023 年度 JAIRO Cloud 共同運営検討タスクフォースでの検討を踏まえ、JAIRO Cloud の共同運営における意思決定を明確にするため、運営委員会の下に JAIRO Cloud 共同運営本部を設置し、JAIRO Cloud 作業部会を共同運営本部の下に移行することとなった。

本件に関しての会員機関向け説明及び意見交換会を 2024 年 6 月 19 日にオンラインで開催した。

(5) JAIRO Cloud 共同運営本部

第 1 回（2024 年 9 月 24 日）

- ・ JAIRO Cloud 共同運営本部について
- ・ 共同運営本部で検討すべき事項について
- ・ NII の今後の開発予定について
- ・ 特別 JC サービスに関する要望について

第 2 回（2025 年 1 月 14 日）

- ・ JAIRO Cloud の現況報告（報告）
- ・ JAIRO Cloud 作業部会 活動報告（報告）
- ・ JPCOAR と NII の役割分担のドキュメントについて（審議）
- ・ JAIRO Crawler-List の運用について（審議）
- ・ オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程第 6 条に係る申合せの改正について（審議）
- ・ JAIRO Cloud の今後の方向性について（意見交換）

(6) オープンアクセス加速化事業の効率的な実施支援

大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）と協働して以下を行った。

- ・ 2024 年 6 月予備アンケートの実施と結果のとりまとめ
- ・ 採択機関間情報交換用 slack の運営

(7) 講師派遣

- ・ 令和 6 年度宮崎県大学図書館協議会講演会（2025 年 1 月 10 日）（現地参加）
- ・ 令和 6 年度茨城県図書館協会大学図書館部会研修会（2025 年 2 月 28 日）（現地参加）

(8) 海外会議参加

- ・ COAR Annual Conference 2024（2024 年 6 月 6～7 日）（スウェーデン、現地参加）
- ・ 2nd Global Summit on Diamond Open Access（2024 年 12 月 9～13 日）（南アフリカ、現地参加）

2024 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会名簿

氏 名	所 属 機 関 ・ 役 職	主 査 ・ 担 当
石津 朋之	筑波大学学術情報部情報企画課リポジトリ係長	JAIRO Cloud 作業部会主査
片岡 朋子	お茶の水女子大学図書・情報課係長（利用支援担当）	コンテンツ流通促進作業部会主査
高橋 菜奈子	新潟大学学術情報部長	JAIRO Cloud 共同運営本部長
次良丸 章	東海国立大学機構名古屋大学附属図書館事務部長	
杉田 茂樹	京都大学附属図書館事務部長	委員長
野中 雄司	京都大学附属図書館研究支援課長	広報・普及作業部会主査 イベント作業部会主査
鈴木 雅子	九州大学附属図書館事務部長	オープンアクセス推進検討タスクフォース主査
山村 徹	石川県立看護大学附属図書館	
折戸 晶子	明治大学図書館総務事務長	
佐藤 翔	同志社大学免許資格課程センター教授	国際担当
加川 みどり	神戸松蔭女子学院大学学術情報センター事務課長	
林 正治	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター 特任准教授	システム開発・連携作業部会主査
南山 泰之	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター 特任助教	研究データ作業部会主査
吉田 幸苗	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長	総務・財務担当

※2023 年度総会（2024 年 3 月 13 日）及び 2024 年度臨時総会（2024 年 10 月 10 日）にて承認。

2024 年度 JAIRO Cloud 共同運営本部名簿

氏 名	所 属 機 関 ・ 役 職	備 考
斎藤 未夏	筑波大学学術情報部長	
石津 朋之	筑波大学学術情報部情報企画課リポジトリ係長	
前田 朗	東京大学工学系・情報理工学系等情報図書課長	
高橋 菜奈子	新潟大学学術情報部長	本部長
次良丸 章	東海国立大学機構名古屋大学附属図書館事務部長	
杉田 茂樹	京都大学附属図書館事務部長	
大園 岳雄	鳥取大学研究推進部図書館情報課長	
折戸 晶子	明治大学図書館総務事務長	
加川 みどり	神戸松蔭女子学院大学学術情報センター事務課長	
細川 聖二	国立情報学研究所学術基盤推進部次長	
吉田 幸苗	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長	
林 豊	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課副課長	

2024 年度 作業部会等活動報告

1. 広報・普及作業部会
2. イベント運営作業部会
3. コンテンツ流通促進作業部会
4. 研究データ作業部会
5. システム開発・連携作業部会
6. JAIRO Cloud 作業部会
7. オープンアクセス推進検討タスクフォース
8. COAR Annual Conference 2025 地域組織委員会
9. 企画・調査担当

1. 2024 年度活動計画

(ア) コミュニティ内の情報共有

機関リポジトリコミュニティの活性化のためにメーリングリスト（ML）等の企画・管理を行い、利活用を促進する。

(イ) ウェブマガジンの運営

オープンアクセスや学術情報流通に関する実践的・先進的な情報をわかりやすく編集し、JPCOAR 会員および学術情報流通に関わる人々にとって、有益かつ励みとなる記事を発行していく。

2. 会合・活動状況

5 月 31 日 第 1 回ミーティング（オンライン 以下同）

イベント運営作業部会と合同開催

顔合わせ・活動内容説明・分担割振等

6 月 19 日 第 2 回ミーティング

運営委員会報告・課題確認・ウェブマガジン進捗確認等（以下同）

7 月 17 日 第 3 回ミーティング

8 月 21 日 第 4 回ミーティング

9 月 18 日 第 5 回ミーティング

10 月 16 日 第 6 回ミーティング

11 月 20 日 第 7 回ミーティング

12 月 18 日 第 8 回ミーティング

1 月 15 日 第 9 回ミーティング

2 月 19 日 第 10 回ミーティング

3 月 19 日（予定） 第 11 回ミーティング

3. 成果物

・コミュニティツールの再編（今年度内実施予定）

- JPCOAR Open ML・JPCOAR Community Slack の新設及び運用内規の整備
- JPCOAR Community ML の廃止

・JPCOAR ウェブマガジン

- 記事 17 本公開（1 月 20 日時点） ※今年度内に 5～10 本程度追加公開予定
- ウェブマガジンのセッション数 19,673 件（2024）

・OA ウィーク

- OAW 特設ページを開設

4. 2024 年度メンバー一覧

◎野中 雄司（京都大学附属図書館研究支援課長）

村木 麻衣子（北海道大学附属図書館研究支援課研究支援企画担当）

熊崎 由衣（千葉大学附属図書館利用支援企画課アカデミック・リンクグループリーダー）

○南雲 修司（東京学芸大学総務部学術情報課アーカイブ室アーカイブ係長）

金田 佳子（富山大学研究推進部学術コンテンツ課係長）

安田 翔子（富山大学研究推進部学術コンテンツ課主任）

野村 明日香（滋賀大学附属図書館図書情報課図書情報サービス第二係主任）

○永井 一樹（兵庫教育大学教育研究支援部研究推進課図書館チーム副課長）

山下 真人（兵庫教育大学教育研究支援部研究推進課図書館チーム主任）

中谷 昇（鳥取大学研究推進部・図書館情報課・資料サービス係・主任）

植山 廣紀（岡山大学附属図書館情報管理課資料受入グループ図書職員）

井上 尚紀（広島大学学術・社会連携室図書館部図書学術情報企画グループ主査）

金子 尚登（広島大学学術・社会連携室図書館部図書学術情報普及グループグループリーダー）

阿部 潤也（東京歯科大学図書館課長）

※主査は◎、副査は○で示す。

1. 2024 年度活動計画

(ア) 担当者向け研修、セミナー等の実施

各会員機関の機関リポジトリ担当者が機関の特性や置かれている状況に応じて必要な研鑽を積めるような研修・セミナー、コミュニティ活性化を目的とした図書館総合展等のイベントを実施する。運営事務の一部を業者委託する。

2. 会合・活動状況

- ・ 5 月 31 日 コミュニティグループ顔合わせ（オンライン 以下同）
自己紹介、体制説明、各作業部会の分担・スケジュール確認
- ・ 6 月 10 日 打ち合わせ
前年度活動説明、各イベント企画検討
- ・ 6 月 27 日 打ち合わせ
イベント運営体制検討、各イベント企画検討、定例 MT 日程検討
- ・ 7 月 9 日 定例 MT
イベント運営体制検討、各イベント企画検討（以下同）
- ・ 8 月 6 日 定例 MT
- ・ 9 月 10 日 定例 MT
- ・ 10 月 9 日 定例 MT
- ・ 11 月 13 日 定例 MT
- ・ 12 月 24 日 定例 MT
- ・ 1 月 21 日 定例 MT
- ・ 2 月 18 日 定例 MT
- ・ 3 月 定例 MT（予定）

3. 成果物

【概要】

- ・ JPCOAR Webinar
 - 計 6 回開催（うち 1 回は 3 月開催予定） 延べ参加者：1,895 人
 - ・ 基礎研修を含む
 - ・ 動画と資料を JPCOAR Web サイト上で公開
 - ・ オンライン開催
- ・ 図書館総合展フォーラム
 - フォーラム「オープンアクセス加速化事業 中間報告会 ～加速後のその先の世界へ～」を担当 参加者数：現地会場 156 人、オンライン 414 人
 - ・ 資料を JPCOAR Web サイト上で公開
 - ・ 現地会場、オンライン配信のハイブリッド開催

- ・ 「即時 OA に備える」シリーズ
 - 「その 1 学術雑誌論文の権利確認方法って？ ①よくあるパターン講義編」
 - ・ 動画と資料を作成し、会員限定公開済
 - 「その 1 学術雑誌論文の権利確認方法って？ ②個別事例の実践編「教科書が教えない権利処理 連続ワークショップ」
 - ・ 延べ参加者：2,093 人
 - ・ オンライン開催（講師：杉田委員長）
 - 「その 2 根拠データの登録に備える」
 - ・ 3 月 6 日開催予定
- ・ 研修講師派遣
 - 令和 6 年度宮崎県大学図書館協議会講演会『オープンアクセスの実務』
 - ・ 依頼を受け、作業部会員 1 名が講師を担当（現地）

【詳細補足】

- ・ 7 月 2 日

2024 年度第 1 回学術コミュニケーションセミナー（JPCOAR Webinar）
「機関リポジトリの利用実態に関するアンケート調査報告会」

 - ・ 主催：研究データ作業部会
 - ・ 参加者：203 人
 - ・ 詳細：https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/news/2024#news_20240628
- ・ 8 月 27 日

オープンアクセスアシスト機能・JAIRO Cloud 制限公開機能説明
(2024 年度第 2 回 JPCOAR Webinar)

 - ・ 主催：イベント運営作業部会、NII RDC チーム
 - ・ 参加者：392 人
 - ・ 詳細：https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/news/2024#news_20240819
- ・ 9 月 3 日

2024 年度 リポジトリ担当者の基礎知識研修
(2024 年度第 3 回 JPCOAR Webinar)

 - ・ 主催：イベント運営作業部会
 - ・ 参加者：550 人
 - ・ 詳細：https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/news/2024#news_20240805
- ・ 9 月 26 日

新 SCPJ（β 版）関連資料公開及び SCPJ リニューアル説明会
(2024 年度第 4 回 JPCOAR Webinar)

 - ・ 主催：コンテンツ流通促進作業部会 SCPJ チーム

- ・参加者：214 人
- ・詳細：https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/news/2024#news_20240918_02

- ・11月6日
 図書館総合展フォーラム「オープンアクセス加速化事業 中間報告会
 ～加速後のその先の世界へ～」
 - ・主催：イベント運営作業部会
 - ・参加者：現地会場 156 人、オンライン 414 人（最大）
 - ・詳細：<https://www.libraryfair.jp/forum/2024/1296>

- ・11月11～22日
 即時オープンアクセスに備える 〈その1 学術雑誌論文の権利確認方法って？
 ②個別事例の実践編「教科書が教えない権利処理 連続ワークショップ」〉
 - ・主催：イベント運営作業部会
 - ・参加者数：延べ 2093 名
 - ・詳細：https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/news/2024#news_20241030-01

- ・12月24日
 JAIRO Cloud (WEKO3) 操作説明会 (2024 年度第 5 回 JPCOAR Webinar)
 - ・主催：JAIRO Cloud 作業部会
 - ・参加者数：536 人
 - ・詳細：<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/2000503>

- ・2025 年 1 月 10 日
 令和 6 年度宮崎県大学図書館協議会講演会『オープンアクセスの実務』
 - ・依頼を受け、作業部会員 1 名が講師を担当
 - ・参加者数：現地参加者 16 名
 - ・詳細：<https://www.miyazaki-u.ac.jp/newsrelease/edu-info/6-6.html>

- ・1月17日
 即時オープンアクセスに備える 〈その1 学術雑誌論文の権利確認方法って？
 ①よくあるパターン講義編〉
 - ・動画と資料を JPCOAR 会員限定で公開
 - ・企画・作成：コンテンツ流通促進作業部会、イベント運営作業部会
 - ・詳細：https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/news/2024#news_20241030-01

- ・3月6日（予定）
 即時オープンアクセスに備える 〈その2 根拠データの登録に備える〉
 (2024 年度第 5 回 JPCOAR Webinar)

・主催：研究データ作業部会、イベント運営作業部会

JPCOAR Webinar については、動画・資料を公開し、学術コミュニケーションセミナー (JPCOAR Webinar) まとめページ (<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/monthly>) に記載している。図書館総合展フォーラムについては、発表資料を JPCOAR Web サイト (<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/page/152>) に掲載した。

4. 2024 年度メンバー一覧

◎野中 雄司（京都大学附属図書館研究支援課長）

大石 柁洋（筑波大学学術情報部 情報企画課リポジトリ担当一般職員）

安達 修介（東京大学農学部・農学生命科学研究科総務課図書チーム一般職員）

佐藤 亮太（東京工業大学研究推進部情報図書館課電子図書館グループスタッフ）

○大平 司（東海国立大学機構名古屋大学教学事務部門附属図書館事務部東山地区図書課東地区図書統括グループ主任）

寺升 タ希（滋賀医科大学情報課学術企画係 専門職員）

※主査は◎、副査は○で示す。

コンテンツ流通促進作業部会 2024 年度活動報告

主査：片岡 朋子

1. 2024 年度活動計画

(1) JPCOAR スキーマ

JPCOAR スキーマ Version 2.0 の普及活動を行うとともに、デジタルアーカイブのカタログ情報の流通に向けて調整する。即時オープンアクセス等国内外の動向に応じた適切なメタデータ流通が可能となるよう、情報収集や関係者との調整を図る。

(2) DOI・ライセンス

識別子・ライセンスの調査結果に基づき、学術成果の普及・利活用を促進する。

(3) SCPJ

著作権ポリシーのデータメンテナンスを継続し、SCPJ の利用を推進するための方策を検討する。公的助成を受けた研究成果の即時オープンアクセス(OA)義務化に備えるため、SCPJ のデータ項目を見直し、改訂後の様式で学協会へ再調査するとともに OA 義務化に沿った著作権ポリシーの検討・公開を促す。

2. 会合

・ 6 月 18 日 第 1 回ミーティング (オンライン 以下同)

自己紹介および活動計画に関する意見交換を行い、2 チームに分かれて活動を行うこととなった。

メタデータチーム (瀬川<副主査>、三上、松野、岡村、神谷、堀野、柳、長岡、末田、大澤、金嶋、増山、鹿沼、池田、片岡)

SCPJ チーム (野村<副主査>、佐藤、末田、片岡)

・ 11 月 25 日 第 2 回ミーティング

主に以下について情報共有および意見交換を実施した。

JPCOAR スキーマの活用事例紹介、Open Educational Resources (OER) ガイドラインの構築、デジタルアーカイブ×メタデータ勉強会 #4 への参加、junii2 終了に向けた準備、JPCOAR スキーマの改訂手順の見直しおよび改訂時の必要資料、SCPJ の改定状況、即時 OA に備えるセミナー動画の作成

・ 2025 年 3 月 第 3 回ミーティング (予定)

3. 活動内容

(1) メタデータチーム

- ・ 宇宙科学分野メタデータスキーマ SPASE と JPCOAR スキーマのマッピング事例等に関する名古屋大学関係者および研究データ作業部会との意見交換 (7/17、9/6、10/7、3/3 予定)

- ・ JPCOAR スキーマガイドライン Web サイトへの JPCOAR スキーマ活用事例 (SPASE、JDcat、OER) の掲載 (2024 年度予定)
- ・ IRDB を経由した DataCite DOI の登録費用の発生および IRDB のシステム改修等に伴う「DOI 管理・メタデータ入力ガイドライン」の改訂 (10 月 21 日)
- ・ COAR 資源タイプ統制語彙 Version 4.0 への改訂への協力 (12 月 3 日改訂版公開)
- ・ 「公的資金による研究データの管理・利活用に関するメタデータ説明書」の修正に伴うメタデータ流通ガイドライン (研究データ編) の改訂 (2024 年度予定)
- ・ デジタルアーカイブにおけるカタログ情報の利用ガイドの作成 (2024 年度着手)
- ・ デジタルアーカイブのメタデータ流通に向けた NDL との連携・協力
- ・ OpenAIRE ガイドライン WG への参加 (2024 年度～)
- ・ ジャパンリンクセンター (JaLC) メタデータ担当との意見交換 (2025 年 2 月 13 日)

(2) SCPJ チーム

- ・ 著作権ポリシー雛型の公開および SCPJ 改訂に関する科学技術振興機構との意見交換 (7 月 19 日)
- ・ 著作権ポリシー策定・公開ガイドラインのリーガルチェックの実施 (8 月 26 日～12 月 16 日)
- ・ 新 SCPJ (β 版) の公開および意見募集 (9 月 18 日)
- ・ イベント作業部会 第 4 回 JPCOAR Webinar 開催への協力 (9 月 26 日)
- ・ Jisc 担当者との open policy finder および SCPJ に関する情報交換 (11 月 7 日)
- ・ 著作権ポリシー策定・公開ガイドラインおよびポリシー雛型の公開 (12 月 20 日)
- ・ 「即時オープンアクセスに備えるシリーズセミナー」よくあるパターン講義編の動画作成への協力 (2025 年 1 月 16 日)
- ・ 学協会連絡先調査および新 SCPJ 正式リリース (2024 年度予定)

4. 成果物

- ・ Japan Open Science Summit 2024 セッション D1「研究データのメタデータのあるべき姿とは？」 (6 月 17 日)
「公開・流通用メタデータに求められる項目と入力例の紹介」三上 絢子
- ・ SCPJ リニューアル説明会 (2024 年度第 4 回 JPCOAR Webinar) (9 月 26 日)
「SCPJ 改定の背景とポイントについて」佐藤知生
<https://doi.org/10.34477/0002000473>
- ・ デジタルアーカイブ × メタデータ勉強会 #4 (11 月 22 日)
「JPCOAR スキーマ概要説明」片岡 朋子
「JPCOAR スキーマと国書データベースの未来」堀野 和子
<https://www.nii.ac.jp/event/other/libraryfair/2024/>
- ・ 「著作権ポリシー策定・公開ガイドライン」 (12 月 20 日)

<https://doi.org/10.34477/0002000542>

- ・ 「即時オープンアクセスに備えるシリーズセミナー」よくあるパターン講義編
「学術雑誌論文の権利確認方法って？」野村 周平、岡村 菜々子
- ・ 『デジタルアーカイブ・ベーシックス メタデータのパーспекティブ（仮）』（2025
年4月刊行予定）
「学術コミュニティが運用するメタデータスキーマ DataCite Metadata Schema/
JPCOAR スキーマ」片岡 朋子

5. その他

- ・ 図書館総合展ブース掲示用ポスター作成の協力
- ・ JPCOAR Web サイトリニューアルへの協力（2024～2025 年度実施予定）

6. 2024 年度メンバー一覧

- ◎片岡 朋子（お茶の水女子大学図書・情報課係長（利用支援担当））
- 三上 絢子（北海道大学附属図書館管理課図書受入・目録担当）
- 松野 渉（筑波大学学術情報部アカデミックサポート課主任(学習支援)）
- 瀬川 結美（東京学芸大学総務部学術情報課副課長（学術情報担当）（兼）アーカイブ室長）
- 野村 周平（横浜国立大学研究・学術情報部図書館情報課図書管理係員）
- 岡村 菜々子（九州大学附属図書館事務部 e リソース課リポジトリ係 係員）
- 神谷 優子（慶應義塾大学メディアセンター本部リソースマネジメント担当）
- 堀野 和子（人間文化研究機構国文学研究資料館管理部学術情報課基盤データ企画係長（併）データ標準化推進係長）
- 柳 宗利（人間文化研究機構国文学研究資料館管理部学術情報課特任専門職員）
- 長岡 千香子（国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター 特任助教）
- 末田 真樹子（国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課係長（研究データ基盤整備チーム））
- 大澤 紗都（国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課係員（研究データ基盤整備チーム））
- 佐藤 知生（国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課係員（研究データ基盤整備チーム））
- 金嶋 紀子（国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課係員（研究データ基盤整備チーム））
- 増山 廣美（国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 研究データ基盤整備チーム 主任学術基盤技術専門員）
- 鹿沼 智美（国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 研究データ基盤整備チーム 主任学術基盤技術専門員）

池田 貴儀（国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 研究データ基盤整備チーム 特任技術専門員）

※主査は◎、副査は○で示す。

1. 2024 年度活動計画

(1) 研究データ登録パターンの整理

- ・機関リポジトリに登録される研究データのパターンを整理する
→2023 年度のヒアリング結果及びチーム内での議論をもとに、研究データ登録フローマニュアルの草案を作成した。今後は草案をブラッシュアップし、2025 年中の公開を目指す。

(2) 機関リポジトリのユースケース整理・活用

- ・研究データが機関リポジトリに登録されるユースケースを整理する
→2023 年度に実施したアンケート調査の分析結果を取りまとめ、2024 年 5 月の情報知識学会 第 32 回（2024 年度）年次大会で報告した。また、本報告をもとに、2024 年 7 月には会員向けの報告会「機関リポジトリの利用実態に関するアンケート調査報告会」を実施した。平行して、ここまでの議論をもとに研究データの登録に関わるアクティビティを整理し、論文とその根拠データの登録をはじめとする主なユースケースをモデル化した。さらに、11 月以降に研究データの登録を行っている機関にヒアリングを行い、モデルの精緻化や現在の研究データ登録に関わる課題の抽出を実施した。

(3) RDM 基礎編教材の更新および全国展開

- ・学認 LMS 上での RDM 基礎編教材の全国展開に向けて、教材の一般化および更新を行う。
→JPCOAR リポジトリに登録し、今年度中に学認 LMS にも登録予定。図書館総合展において、今年度の教材作成チームの取組み概要を共有し、上記教材の周知も図った。

(4) RDM 大規模アンケート調査の実施

- ・2020 年、2022 年に引き続き、AXIES-RDM 部会及び NISTEP と合同で国内機関における研究データ管理の取り組み状況調査を実施する。
→2024 年 11 月～12 月にかけてオンライン調査を実施した。AXIES-RDM 部会及び NISTEP と協働のもと、年度内に分析結果速報の公開、周知を目指す。

(5) 独ベルリン自由大学ライブラリアンの招へい

- ・第 26 回図書館総合展の開催に合わせ、独ベルリン自由大学のライブラリアンを招へいし、研究データ管理サービスに関する意見交換を実施する。
→2024 年 11 月 4 日～8 日にかけて Dr. Cosima Wagner を招へいし、JPCOAR 内外の有識者を交えたミーティングを実施した。研究データ作業部会からは、田中幸恵氏

（東海国立大学機構名古屋大学）が名古屋大学における研究データ管理の取り組みを紹介した。また、11月6日には「日独における研究データ管理サービスの現在地と展望」と題したフォーラムを主催した。研究データ作業部会からは、甲斐尚人氏（大阪大学）がRDM教材作成の取り組みを紹介した。

2. 会合・活動状況（4～3月）

□作業部会全体

- ・7月2日 第1回全体ミーティング（オンライン）
- ・11月25日 第2回全体ミーティング（オンライン）
- ・（予定）2025年2～3月 第3回全体ミーティング（オンライン）

□研究データ登録パターン整理チーム

- ・7月22日 第1回ミーティング（オンライン）
- ・8月6日 第2回ミーティング（オンライン）
- ・9月10日 第3回ミーティング（オンライン）
- ・10月25日 第4回ミーティング（オンライン）
- ・2025年1月29日 第5回ミーティング（オンライン）
- ・（予定）2025年2～3月 第6回ミーティング（オンライン）

□機関リポジトリのユースケース検討チーム

- ・7月25日 第1回ミーティング（オンライン）
- ・8月23日 第2回ミーティング（オンライン）
- ・10月3日 第3回ミーティング（オンライン）
- ・10月31日 第4回ミーティング（オンライン）
- ・12月5日 第5回ミーティング（オンライン）
- ・2025年1月23日 第6回ミーティング（オンライン）
- ・（予定）2025年2～3月 第7回ミーティング（オンライン）

□RDM教材作成チーム

- ・8月20日 第1回ミーティング（オンライン）

□イベント開催・参加

- ・11月6日 日独における研究データ管理サービスの現在地と展望（第26回図書館総合展） <https://www.libraryfair.jp/forum/2024/1296-1>

3. 成果物（予定も含む）

□論文

1) 田辺 浩介ほか (2024). 機関リポジトリへの論文及び根拠データ掲載に関する実態調査報告. 情報知識学会誌, 34(2), p.127-134. https://doi.org/10.2964/jsik_2024_008

2) 甲斐 尚人ほか (2024). 研究データ管理の実践を促進する人材育成環境の構築に向けて. 情報の科学と技術, 74(12), p. 538-544. https://doi.org/10.18919/jkg.74.12_538

□発表

1) 田辺 浩介 (2024). 機関リポジトリの利用実態に関するアンケート調査報告会. https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/news/2024#news_20240628

2) 甲斐尚人 (2024). JPCOAR 研究データ作業部会における RDM 教材作成の取組み. <https://doi.org/10.34477/0002000500>

□成果物

1) 「オープンサイエンス時代における研究データマネジメント基礎」

PPT 資料 : <https://doi.org/10.34477/0002000502>

学認 LMS コース : (年度内に開講予定)

(以下予定)

2) 研究データ登録フロアマニュアル

3) 研究データ登録のモデルケース分析結果

4) 「国内機関における研究データ管理の取り組み状況調査 (2024 年度)」分析結果

4. 2024 年度メンバー一覧

○南山 泰之 (国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター 特任助教)

松野 渉 (筑波大学 学術情報部アカデミックサポート課主任(学習支援))

○小林 裕太 (千葉大学 附属図書館利用支援企画課利用支援企画グループ)

石山 夕記 (一橋大学 学術・研究推進部学術情報課電子情報係係員)

田中 幸恵 (東海国立大学機構名古屋大学 教学事務部門附属図書館事務部情報管理課電子リソースグループ 係長)

西森 哲也 (大阪大学 附属図書館学術情報整備課課長補佐)

○甲斐 尚人 (大阪大学 附属図書館研究開発室 准教授)

神崎 隼人 (大阪大学 附属図書館研究開発室 特任研究員)

有馬 良一 (神戸大学 附属図書館情報管理課電子情報グループ事務員)

○田辺 浩介 (国立研究開発法人 物質・材料研究機構 技術開発・共用部門 材料データプラットフォーム データ基盤ユニット 主幹エンジニア)

古川 雅子 (国立情報学研究所 情報社会相関研究系 准教授 / オープンサイエンス基盤研究センター)

朝岡 誠 (国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター 特任助教)

末田 真樹子 (国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課係長 (研究データ基盤整備チーム))

萩野 理恵 (国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課主任 (研究データ基盤整備チーム))

佐藤 知生 (国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課係員 (研究データ基盤整備チーム))

鹿沼 智美（国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課 研究データ基盤整備
チーム 主任学術基盤技術専門員）

※主査は◎、副査は○で示す。

システム開発・連携作業部会 2024 年度活動報告

主査：林 正治

1. 2024 年度活動計画

(1) ワークフロー開発

* 需要に基づくコンテンツ流通の促進とワークフローの軽減を目的に必要な調査・分析を行い、新しいワークフローの提案、必要な機能の開発協力を行う。

(2) コミュニティ・フレームワーク

* JPCOAR として指標としての利用を検討する。COAR のフレームワーク見直しに貢献する。次のアンケート調査に向けての準備を進める。

(3) その他

* システム開発・連携作業部会の在り方

2. 会合・活動状況

・11 月 19 日

第 1 回ミーティング（オンライン）

・2 月 14 日～2 月 18 日

ポリシー確認における AI の有用性について（調査、オンライン）

3. 成果物

・とくになし

4. 2024 年度メンバー一覧

◎林 正治（国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター 特任准教授）

五十嵐 裕一（東京大学大学院情報学環・学際情報学府 図書チーム 係長）

野田 晶子（金沢大学附属図書館総務部・学術情報課・自然科学系図書館担当・専門職員）

江川 和子（国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター特任研究員）

河合 将志（国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター 特任助教）

※主査は◎、副査は○で示す。

JAIRO Cloud 作業部会 2024 年度活動報告

主査：石津 朋之

1. 2024 年度活動計画

(1) 利用サポート

- ・ JAIRO Cloud に関する参加機関の利用のサポートをする。
- ・ JAIRO Cloud に関する機能・設定・操作等に関するオンラインの情報共有機会を作る。

(2) 機能改善

- ・ JAIRO Cloud に関する機能改善の集約方法等について検討する。

(3) システム関連問い合わせ対応

- ・ メーリングリスト等を通じて JAIRO Cloud 利用支援を始めとする JAIRO Cloud コミュニティのサポートを行う。

2. 会合 (4~3 月)

- ・ 6 月 17 日 第 1 回ミーティング (場所：NII 会議室)
 - 操作説明会用教材動画収録 (リハーサル・本番)
 - 第 25 回 JPCOAR 運営委員会陪席 (オンライン) ほか
- ・ 9 月 4 日 第 2 回ミーティング (場所：NII 会議室)
 - オリエンテーション (自己紹介、副主査の決定)
 - JC 共同運営本部の発足について (陪席の高橋本部長より説明)
 - 2023 年度残課題、2024 年度の活動案について ほか
- ・ 12 月 4 日 第 3 回ミーティング (場所：NII 会議室)
 - アップデート等に関する情報共有 (陪席の NII 担当者よりそれぞれ説明)
 - JAIRO Cloud (WEKO3) 関連の諸課題について
 - 操作説明会の回答作成 ほか

3. 活動状況

- ・ 操作説明会の実施 (活動計画 (1))
 - 「2024 年度 JAIRO Cloud (WEKO3) 操作説明会」を「2024 年度第 5 回 JPCOAR Webinar」として開催した。
 - 12 月 24 日 (火) 10:00~12:00 にオンラインで開催し、536 名の参加があった。(事前に URL を JPCOAR 会員館に通知し、事前申し込みは不要とした。)
 - 開催に先立ち操作説明動画を公開、事前質問を受け付け 71 件の質問が寄せられた。当日はこれらの質問について一問一答形式で回答した。
 - アンケートには 167 件の回答が寄せられた (回答率 31%)。
- ・ 要望の分析・取りまとめ (活動計画 (2))
 - 2023 年 6 月~2024 年 9 月にかけてメーリングリストに寄せられた要望を整

理して共同運営本部に報告した。

- 今後は共同運営本部で検討するサービスレベルに沿って、取捨選択、優先度付け等の流れを整理して定期的に要望を NII に共有する。
- ・ JAIRO Cloud 利用機関との情報共有方法の改善（活動計画（3））
 - JPCOAR JAIRO Cloud Community ML に寄せられた問い合わせの進捗及び本文のアーカイブを利用機関から参照できるシート及びダッシュボードの作成を行った。
 - 運用面やセキュリティ上の懸念点等について NII 担当者に確認の上、共同運営本部で調整のうえ、利用機関への提供を開始する。
- ・ JAIRO Crawler-List の更新
 - JAIRO Crawler-List について 2025 年 4 月 1 日以降の定期的な更新に向けて共同運営本部に提案し、2024 年度第 27 回 JPCOAR 運営委員会（2025 年 2 月 5 日）での承認を経て参加機関に通知した。
- ・ JPCOAR スキーマ 2.0 サポートドキュメントの作成
 - v1.0.8 アップデート後に各機関で必要となる操作について、平易に解説するドキュメントを作成した。同アップデートの適用に合わせて公開する。
- ・ 図書館総合展でのポスター掲示・質問対応
 - 図書館総合展 2024（11 月 5 日～7 日）において「即時 OA に対応するメタデータ入力」ポスターを作成し、JPCOAR で作成した他のポスターと並べて JPCOAR ブースに掲示した。
 - 11 月 7 日（木）15:00～17:00 に RCOS 教員 3 名と共に JPCOAR ブースにて来場者の質問に対応した。

3. 成果物（予定も含む）

- ・ JAIRO Cloud（WEKO3）操作説明会用教材動画 3 点を作成・公開
https://www.youtube.com/playlist?list=PLZdRLSdt3sbgAf2x5YCab4iC4xvU_z0Wu
- ・ JPCOAR JAIRO Cloud Community ML に寄せられた問い合わせの進捗及び本文のアーカイブを利用機関から参照できるシート及びダッシュボード（予定）
- ・ 「即時 OA に対応するメタデータ入力」ポスターを作成・掲示（図書館総合展 2024 の JPCOAR ブース）

4. その他

- ・ サポートサイト（meatwiki）のライセンス切れに備えた移行先の検討（広報・普及作業部会で進めている Web サイト移行とあわせて検討する。）
- ・ 信州共同リポジトリ年度報告会への参加及び利用機関へのヒアリング（予定）
- ・ 次期リポジトリシステムに求める要件の利用機関を交えた検討（予定）

5. 2024 年度メンバー一覧

- ◎石津 朋之（筑波大学学術情報部情報企画課リポジトリ係長）
藤原 幸生（新潟大学学術情報部 学術情報管理課 情報基盤係（係員））
野田 晶子（金沢大学附属図書館総務部・学術情報課・自然科学系図書館担当・専門職員）
伊東 洋輔（信州大学附属図書館情報システム・学術資料（雑誌）グループ情報システム担当主任）
○寺升 タ希（滋賀医科大学情報課学術企画係 専門職員）
○楫 幸子（安田女子大学図書館図書課 専門職員）
○加川 みどり（神戸松蔭女子学院大学学術情報センター事務課長）
林 賢紀（国立研究開発法人国際農林水産業研究センター情報広報室 広報資料科 情報高度利用専門職）
林 正治（国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター 特任准教授）
住吉 誠（国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター主任学術基盤技術専門員）
林 豊（国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課副課長）

※主査は◎、副査は○で示す。

オープンアクセス推進検討タスクフォース 2024 年度活動報告

主査： 鈴木雅子

1. 2024 年度活動計画

(ア) オープンアクセスに関する調査とフィードバック

機関リポジトリを通じたオープンアクセスについて、国内外で調査を行い、会員機関に情報をフィードバックする。

2. 会合・活動状況

(1) 会合

- ・ 05 月 22 日 JUSTICE との打合せ（オンライン）：今後の協働について意見交換
- ・ 05 月 31 日 JUSTICE 及び国立大学図書館協会資料委員会オープンサイエンス小委員会との打合せ（オンライン）：今後の協働について意見交換
- ・ 09 月 26 日 日本学術振興会研究事業部 研究助成企画課長、研究助成第二課長との打合せ（オンライン）：国の OA 義務化方針について意見交換
- ・ 10 月 17 日 第 1 回タスクフォース会合（NII・オンライン）
- ・ 11 月 07 日 第 2 回タスクフォース会合（横浜・オンライン）
- ・ 12 月 24 日 「大学図書館研究」編集委員会 TF と第 1 回勉強会：XML 化について
- ・ 01 月 31 日 「大学図書館研究」編集委員会 TF と第 2 回勉強会：XML 化ツールについて
- ・ 02 月 04 日 丸善雄松堂との打合せ（オンライン）：リポジトリ業務に関して情報交換

(2) 活動

本タスクフォースの設置目的は、オープンアクセスの諸類型の現況を踏まえ、今後機関リポジトリが目指すべき方向性について検討することである。この目的に基づき、以下を企画・実施した。

- ① 図書館総合展 2024 の 11 月 6 日フォーラム及び 11 月 5 日スピーカーズコーナーにおいて、今後の学術情報流通を考える機会を企画した。（フォーラムは JUSTICE との合同企画）
- ② 「機関リポジトリの次の一手を考える」シリーズ勉強会を企画し、JPCOAR 参加機関であれば誰でも参加可（申込み不要）として、以下の通り、オンライン開催した。
2 月 25 日までに計 9 回実施し、参加人数はのべ 1,150 名。3 月末まで数回開催予定。なお、「ちまたわ」は巷で話題の記事や海外ブログ記事等を紹介するシリーズである。

- ・ 第 1 回：12 月 9 日（月）15:00～15:30

ちまたわ vol. 1 「生成 AI で論文をでっちあげ! ?」

講師：安達修介（東京大学） 参加者：146 名

- ・ 第 2 回：12 月 17 日（火）15:00～17:00

「機関リポジトリで収集しているコンテンツは今のままでよいのか？ ～ライセンス問題～」

講師：鈴木康平（人間文化研究機構）、佐藤 翔（同志社大学） 参加者：234 名

- ・ 第 3 回：12 月 24 日（火）12:05～12:55

「第 2 回ダイヤモンド OA サミット参加報告」

講師：坂本 拓（JPCOAR） 参加者：109 名

- ・ 第 4 回：1 月 7 日（火）15:00～15:30

ちまたわ vol. 2 「インドの OA 事情：One Nation One Subscription とは」

講師：尾城友視（東京大学／JUSTICE） 参加者：159 名

※JUSTICE の OA 推進検討作業部会との共催

- ・ 第 5 回：1 月 24 日（金）15:00～15:30

ちまたわ vol. 3 「論文撤回問題等：チャールストン会議から」

講師：金子芙弥（九州大学） 参加者：97 名

- ・ 第 6 回：1 月 27 日（月）15:00～15:30

「アフリカの OA 事情：いかにダイヤモンドに乗り出したか」

講師：坂本 拓（JPCOAR） 参加者：71 名

- ・ 第 7 回：2 月 3 日（月）14:30～15:30

「Plan S レポートの内容をかいつまんで教えてもらう会」

講師：安達修介（東京大学） 参加者：128 名

- ・ 第 8 回：2 月 18 日（火）15:00～16:00

「フランスの OA 事情：オープンアーカイブ HAL と CCSD の取組み」

講師：石津朋之（筑波大学） 参加者：111 名

- ・ 第 9 回：2 月 25 日（火）15:00～16:00

「APC モデルからの脱却を目指すマルチステークホルダーWG とは」

講師：佐藤 翔（同志社大学） 参加者：95 名

- ・ 第 10 回：2 月 28 日（金）15:00～16:00（予定）

「英国 REF2029 Open Access Policy を読む」

講師：花崎花代子（神戸大学／国立大学図書館協会資料委員会）

※国立大学図書館協会資料委員会との共催

- ・ 第 11 回：3 月 4 日（火）15:00～16:00（予定）

「おさらい CC：機関リポジトリのコンテンツは今のままでよいのか？」

講師：高橋菜奈子（新潟大学）

3. 成果物

2. （2）②「機関リポジトリの次の一手を考える」シリーズ勉強会で使用した資

料を公開した。

4. 2024 年度メンバー一覧

◎鈴木 雅子（九州大学附属図書館事務部長）

安達 修介（東京大学農学部・農学生命科学研究科総務課図書チーム一般職員）

高橋 菜奈子（新潟大学学術情報部長）

杉田 茂樹（京都大学附属図書館事務部長）

野中 雄司（京都大学附属図書館研究支援課長）

佐藤 翔（同志社大学免許資格課程センター教授）

林 正治（国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター 特任准教授）

河合 将志（国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター 特任助教）

※主査は◎で示す。

主査： 前田 隼

宮井 杏佳（東京大学附属図書館情報柏地区図書課資料管理チーム物性研図書室担当 一般職員）
上野 耕平（電気通信大学学術国際部学術情報課 情報受入係）
村西 明日香（東海国立大学機構名古屋大学附属図書館情報管理課電子リソースグループ 図書主任）
山岸 瑤果（京都大学附属図書館研究支援課研究支援第三掛掛員）
菊谷 智史（大阪大学附属図書館箕面図書館課図書職員）
有馬 良一（神戸大学附属図書館情報管理課電子情報グループ事務員）
金子 芙弥（九州大学附属図書館事務部 e リソース課 e リソース管理係員）
林 豊（国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課副課長）

※主査は◎、副査は○で示す。

1. 会合・活動状況

○ オープンアクセス加速化事業支援のための取組

・ 4 月 8 日、9 日

「OA 加速化事業申請に向けた意見交換会」を JUSTICE と共同開催（オンライン）

参加者数：403 名

会員機関が標記事業で申請する内容について情報を交換し、また共同申請の相手機関を見つけることを目的に開催した。

・ 6 月 3 日～6 月 10 日

「オープンアクセス加速化事業の効率的な実施支援のための予備アンケート」を JUSTICE と共同実施 回答数：79 機関

会員機関に対して、標記事業について申請した経費区分と、他機関との情報交換を希望する内容についてアンケート調査を実施した。また当該アンケート結果を元に、下記の国内調査編、海外調査編、物品等調達編の 3 つの企画を実施した。

・ 6 月 20 日、7 月 26 日

「OA 加速化事業申請機関情報交換会（国内調査編）」を JUSTICE と共同開催（オンライン） 参加者数：137 名

・ 7 月 1 日

「OA 加速化事業申請機関情報交換会：海外調査編」を JUSTICE と共同開催（オンライン） 参加者数：59 名

・ 7 月 1 日～7 月 31 日

「OA 加速化事業申請機関情報交換（物品等調達編）」を JUSTICE と共同実施（オンライン） 参加機関数：29 機関

・ 10 月 7 日～10 月 27 日、11 月 1 日～11 月 10 日

「OA 広報素材作成祭り」を JUSTICE と共同開催（オンライン） 応募数：29 作品

学内研究者に対して OA を広報する際に用いる素材・アイデアを会員機関に募集し、それを相互に参照することで、より良い広報が行えることを目指し開催した。また応募された作品への投票を実施し、その結果として 7 つの作品をオンラインで表彰した。

○ 会員機関へのウェブサイトでの情報発信を強化するための会合

・ 9 月 12 日、13 日

「JPCOAR ウェブサイト・リニューアル検討会」を開催（オンサイト）

○ 海外におけるオープンアクセスの最新動向調査

・ 12 月 9 日～12 月 13 日

“2nd Global Summit on Diamond Open Access” (Cape Town, South Africa) 参加

各国の OA 担当者およびユネスコの「オープンサイエンスに関する勧告」の責任者が参

加し、広く事例共有と意見交換が行われた。ダイヤモンド OA が持つ道義的価値が確認されるとともに、商業出版社への支出よりもはるかに低コストでダイヤモンド OA プラットフォームを構築・運営している事例が報告され、また現状の研究評価の枠組みがダイヤモンド OA 実現の障壁となっていること等が議論された。

2. 成果物

- ・第 71 回国立大学図書館協会総会で掲示した JPCOAR 活動紹介ポスター
- ・第 26 回図書館総合展 JPCOAR ブースで掲示した各部会の活動紹介ポスター

3. その他

- ・第 26 回図書館総合展のプログラム全体の連絡・調整
- ・OA 加速化事業情報交換用 Slack の設置（9 月 19 日）

2024 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）決算（経過報告）

<収入の部>

2025.2.28現在

科目	2024年度 当初予算額(A)	2024年度 決算見込額(B)	増▲減 (B)-(A)	備考
1. 会費	22,464,000	23,504,000	1,040,000	2024年度会費徴収機関数: 778 区分A: 693 x 2.6 万円 = 18,018 千円 区分B: 44 x 5.2 万円 = 2,288 千円 区分C: 41 x 7.8 万円 = 3,198 千円
計	22,464,000	23,504,000	1,040,000	

<支出の部>

科目	2024年度 当初予算額(C)	2024年度 決算見込(D)	増▲減 (D)-(C)	備考
1. 事務局経費	5,125,000	5,374,274	249,274	
(1) 事務協力費	4,125,000	4,734,121	609,121	
事務補佐員人件費	4,125,000	4,734,121	609,121	
(2) 事務局運営費	1,000,000	640,153	▲ 359,847	チャットボット経費、Google_Workspaceライセンス、jpcoar.org ドメイン年間維持管理
2. 運営委員会等経費	30,000	171,100	141,100	
活動費	30,000	171,100	141,100	
監事監査費	0	0	0	
3. 総会経費	450,000	540,460	90,460	
総会会場費	0	0	0	
総会運営費	400,000	385,000	▲ 15,000	オンライン配信
総会旅費	50,000	155,460	105,460	会長・委員長旅費
総会ミーティング会場費	0	0	0	
総会ミーティング出張費	0	0	0	
4. 図書館総合展出展	900,000	1,077,450	177,450	
総合展会場費	400,000	137,500	▲ 262,500	
総合展運営費	500,000	939,950	439,950	オンライン配信
5. 事業推進経費	13,659,000	13,919,256	260,256	
広報・普及作業部会	420,000	143,990	▲ 276,010	ウェブマガジン運営費・翻訳費・文字起こし費
イベント運営作業部会	800,000	319,000	▲ 481,000	オンライン配信
コンテンツ流通促進作業部会	1,000,000	1,561,120	561,120	JPCOARスキーマ編集アプリケーション・SCPJ更新費用、著作権ポリシーひな型リーガルチェック
研究データ作業部会	950,000	568,420	▲ 381,580	国内外招聘旅費
JAIRO Cloud作業部会	600,000	764,980	164,980	作業部会開催旅費、JC操作説明会準備
システム開発・連携作業部会	0	0	0	
オープンアクセス推進検討TF	40,000	866	▲ 39,134	タスクフォース開催旅費
調査等事業推進経費	5,025,000	6,021,880	996,880	出向事務協力費、ウェブサイトリニューアル検討会
窓口業務委託経費	4,824,000	4,539,000	▲ 285,000	
6. 国際連携活動費	2,300,000	2,513,294	213,294	
海外派遣旅費	1,000,000	860,319	▲ 139,681	COAR総会・ダイヤモンドOAサミット出席旅費
出張報告会	0	0	0	
COAR 2025地域組織委員会	0	281,206	281,206	地域組織委員会活動費
COAR会費	1,300,000	1,371,769	71,769	2024年COAR年会費
計	22,464,000	23,595,834	1,131,834	

※支出のうち不足額については、国立情報学研究所予算からの支援により支出する。

JAIRO Cloud利用料金

<収入の部>

科目	2024年度 当初予算額(E)	2024年度 決算見込額(F)	増▲減 (F)-(E)	備考
JAIRO Cloud利用料金	84,542,000	90,024,000	5,482,000	
計	84,542,000	90,024,000	5,482,000	

<支出の部>

科目	2024年度 当初予算額(G)	2024年度 決算見込額(H)	増▲減 (H)-(G)	備考
JAIRO Cloud運用費	84,542,000	90,024,000	5,482,000	
計	84,542,000	90,024,000	5,482,000	

2024 年度 JAIRO Cloud 共同運営本部 活動報告

1. 設置の経緯

- ・ 2023 年度 JAIRO Cloud 共同運営検討タスクフォースの検討をもとに JPCOAR と NII の間での協議の場として設置
- ・ 2024 年 6 月 19 日（水）「JAIRO Cloud 共同運営本部及び作業部会設置についての意見交換会」開催 参加者数：314 名（187 機関）
- ・ JPCOAR 運営委員会でのメール審議
- ・ 2024 年 7 月 18 日 JAIRO Cloud 共同運営本部規程（参考資料 2-6）制定

2. 会議開催

- 1 2024 年 9 月 24 日（火） 第 1 回 JAIRO Cloud 共同運営本部会議（オンライン）
 - JAIRO Cloud 共同運営本部の設置の経緯について
 - 共同運営本部での検討すべき事項について（意見交換）
 - NII の今後の開発予定について
- 2 2025 年 1 月 14 日（火） 第 2 回 JAIRO Cloud 共同運営本部会議（オンライン）
 - JPCOAR と NII の役割分担のドキュメントについて
 - JAIRO Crawler-List の取り扱いについて
 - オープンアクセスリポジトリ推進協定会費規程第 6 条に係る申合せ（参考資料 2-5）の改正
 - JAIRO Cloud の今後の方向性について（意見交換）

3. 検討・活動状況

- 1 「オープンアクセスリポジトリ推進協会と国立情報学研究所による JAIRO Cloud 共同運営の役割分担についての申合せ」の策定
 - 参考資料 2-7
 - 経緯：昨年の総会において、JC 共同運営検討タスクフォースからの提案として、共同運営体制図の改訂を提案したが、利用機関との意見交換において、文書化を望む意見があったため、JPCOAR と NII の双方の「申合せ」として策定した。
- 2 JAIRO Crawler-List の取り扱いについての運用の決定
 - アクセス統計を正確に出力するための JAIRO Crawler-List について、2025 年 4 月 1 日以降の定期的な更新に向けて JPCOAR と NII の役割分担・運用方法を整理した。
 - 2 月 17 日に、2025 年 4 月 1 日の適用による影響について、周知済み
- 3 JAIRO Cloud 特別料金（オープンアクセスリポジトリ推進協定会費規程第 6 条）に係る申合せの改正
 - 参考資料 2-5
 - リポジトリへの登録データ量が増加する傾向にあるため利用機関からの要望

に応え、申請できる登録容量区分の上限を撤廃する。ただし、環境提供時期が目安より遅延する場合がある。

- 2月25日に利用機関に通知済み

4 JAIRO Cloud の今後の方向性について（意見交換）

- 報告資料 3-2

5 JAIRO Cloud 作業部会の活動

- 報告資料 1 作業部会報告参照
- 主な成果：操作説明会の実施

JAIRO Cloud に対する要望の分析・とりまとめ

情報共有方法の改善（ML ダッシュボードの作成）

JAIRO Crawler-List 更新

図書館総合展でのポスター掲示・質問対応

JPCOAR スキーマ 2.0 サポートドキュメントの作成

4. 今後の検討・活動の予定

1 JAIRO Cloud サービスの共同運営

- サービスレベルの検討
- JAIRO Cloud サービスの提供に必要な人員の精査
- 機関リポジトリシステムへの要望のとりまとめと精査
- 機関リポジトリシステムの安定稼働・機能拡張の方向性の検討

2 JPCOAR と NII との協議

- 定期的な本部会議の開催
- 機関リポジトリシステムのアップデートの内容及びスケジュールの確認
- JPCOAR と NII の申し合わせの運用・協議フローの整理

3 利用機関のコミュニティ運営

- 利用機関同士の交流・主体的な参画の促進
- 研修・操作説明会の開催や利用機関向けマニュアルの提供
- 利用機関のコミュニケーションのあり方の見直し

2023年度のJC共同運営検討TFによる 現状の課題整理

1. JCの移行遅れ・不具合対応の遅れや運用支援の不足による利用機関の不満
2. JPCOARとNIIの「共同運営」の内容が不明確
 - ・意思決定の方法
 - ・JPCOARとNIIの作業分担・責任の範囲（共同運営体制図の改訂）
3. 利用機関の多様化
 - ・「共同運営」の理念が共通理解を得られていない
 - ・サポートの必要性の増大とそのため的人的資源の不足

2023年度のJC共同運営検討TFによる 改善のために必要なこと

- JPCOARとNII双方において、JCというサービスのコンセプトを理解し、共同運営の役割や責任、関係性について共通認識を形成する必要がある
- JPCOAR（利用機関、運営委員会）とNII（学術コンテンツ課、RCOS）との間でコミュニケーションを改善する必要がある
- 過去の失敗について客観的な分析を行い、利用機関に対してこれまでの経緯を伝える必要がある
- 検討にあたっては、JCが持つべき機能や方向性を整理し、利用機関に対して今後の方針を明示的に伝える必要がある
- 共同運営にあたり、必要な予算や人員を精査し明確にする必要がある

NII、JPCOARのそれぞれに反省すべき点

課題①への対応策（昨年度2023年度の総会以降の進捗状況）

1. JCの移行遅れ・不具合対応の遅れや運用支援の不足による利用機関の不満

- NIIから利用機関に対する現況及び今後の計画への十分な説明の徹底
- 昨年（2024年3月13日）の総会で、移行について、NIIから説明
- システムのアップデート・不具合等について、進捗と併せてNIIから各利用機関に逐次メール連絡。
- その他、NIIによる「OA加速化事業におけるNIIの開発内容説明会」（2024年11月1日、2025年2月7日）の開催により、情報提供あり。
 - <https://rcos.nii.ac.jp/OpenAccessNii20241101/>
 - <https://rcos.nii.ac.jp/OpenAccessNii20250207/>
- 本日の総会にて、NIIから現況および今後の計画について報告。

課題②への対応策（昨年度2023年度の総会以降の進捗状況）

2. JPCOARとNIIの「共同運営」の内容が不明確

- 意思決定の方法 ⇒JC共同運営本部の設置

➤2024年7月18日 JAIRO Cloud共同運営本部設置済み

- JPCOARとNIIの作業分担・責任の範囲 ⇒共同運営新体制図を策定

➤NII職員とJPCOAR事務局・作業部会員の分担を変更。

2024年8月より、システムに関する問い合わせ対応をNII職員が担当。

➤JAIRO Cloud作業部会の活動内容の変更。

➤「オープンアクセスリポジトリ推進協会と国立情報学研究所によるJAIRO Cloud共同運営の役割分担に関する申し合わせ」の策定

課題③への対応策（昨年度2023年度の総会以降の進捗状況）

3. 利用機関の多様化

- ・「共同運営」の理念が共通理解を得られていない
⇒総会での周知・共有

- 昨年（2024年3月13日）の総会で、共同運営の理念について説明。
- 利用機関全体の理解の増進のため、JC作業部会でのコミュニティ活性化を強化予定。

- ・サポートの必要性の増大とそのための人的資源の不足
⇒次年度以降にJC共同運営本部で検討を行う

- JAIRO Cloudサービスの成立の背景や想定されるサポートレベルについて、引き続き、JC共同運営本部での検討と利用機関全体の理解の増進が課題

JAIRO Cloud 今後の方向性について （JC共同運営本部での意見交換の概要）

- JPCOARが必要とするリポジトリについて
 - 安定性が最優先。よりよいシステムについて、引き続き、検討が必要。
 - 機関ごとのカスタマイズによる運用負担の増加について、検討が必要。
 - 問合せの対応の負荷軽減は、引き続き、検討。
- JAIRO Cloudのサービスレベル
 - 商用サービスとの違い（現状はベストエフォート）への認識の共有。
 - 運用コストはJC利用料金だけではカバーできず、政策的な観点から国の予算（NII負担）が投入されている。ただし、増えない。
 - システムの維持管理や運用が NII としても厳しい状況。JPCOAR側で実施しないことを決めることは安定化に繋がる。
- 共同運営体制の見直しについて
 - マンションの自治会のような意識で、JCを利用し、支えることが必要。

2024年度 JPCOAR総会資料 国立情報学研究所からのご報告

2025-03-14
国立情報学研究所

1. NII RDCのOA加速化事業（FY2024）の進捗報告
2. JAIRO Cloudのアップデート実施報告（FY2024）
3. JAIRO Cloudの新機能および新サービスにかかる先行利用（FY2024）
4. OA加速化事業によるJAIRO Cloud 今後の開発内容

NII RDCのOA加速化事業（FY2024）の進捗報告

■ 即時OAを可能とする機能の開発状況

✓ 外部機関による評価中

図書館員が

機関の論文および根拠データを、
機関リポジトリに簡単に登録&公開できる

- ✓ OAダッシュボードの機能強化（機関向け、研究者向け）
- 5 OAアシストのメール機能等の強化、APIの開発
- 6 OAアシストのポリシーDBの整備とポリシー確認機能の開発
- ✓ リポジトリ（JC）でOAコンテンツを分かりやすく見せる機能
- 8 リポジトリ（JC）利用機関へのアクセスをモニタリング

政府機関が

日本のOA加速化の成果が機関ごとに確認できるようになる
日本のOS状況がわかる（G7対応含む）



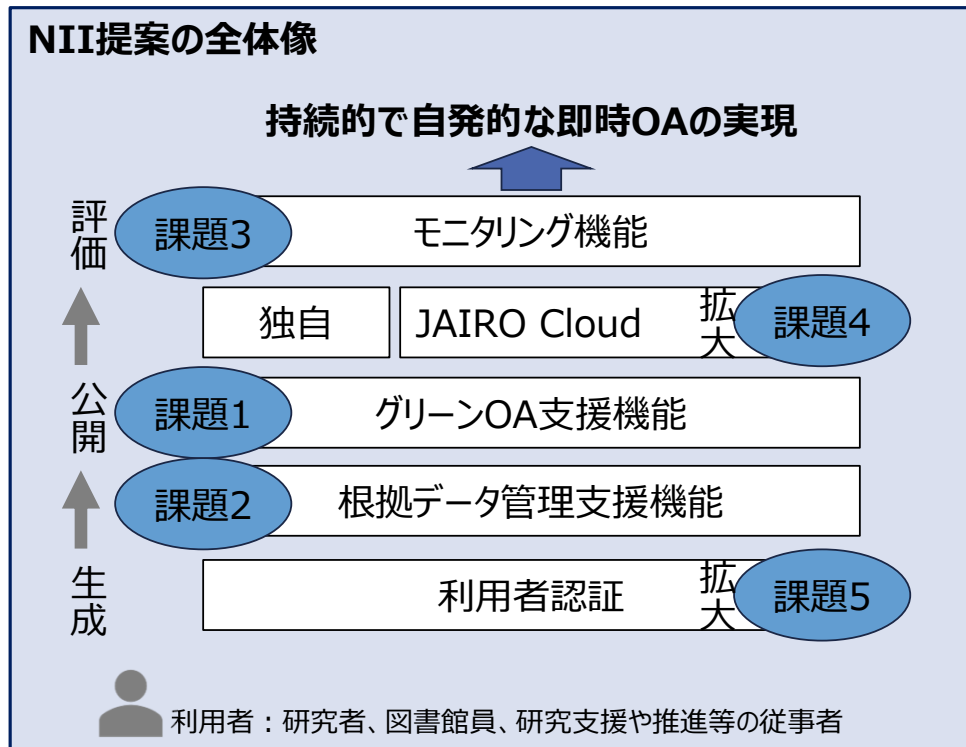
研究者が

研究PJデータを、自分自身で、
または図書館を介して、
機関リポジトリへ一括登録できる

- 1 データ管理（GRDM）での査読付論文（著者最終）と書誌情報の登録機能の開発
- 2 論文と根拠データを紐づけて、メタデータをリポジトリ（JC）へ登録する機能の開発
- 3 論文登録業務プロセスの研究者と図書館の双方の負荷軽減のためのワークフローシステムの開発

- ✓ CiNii Research機関向けダッシュボード
OA論文、研究データ、科研費、国際共著等に関する指標ページ構築
- 10 French Open Science Monitor日本版
（文献メタデータ取込、OA指標算出、表示ウェブアプリケーション）

■ 即時OAを可能とする研究基盤の全体像



2024/9/24 JPCOAR-NII資料から

提供する機能例

大学等機関での即時OAに対応するNII RDCシナリオ

パターン1 学内で整備する研究情報統合システム等と連携するresearchmapからJAIRO Cloudに公開情報を送り、当該論文を登録（本人）、確認（図書館等）して公開

- ✓ グリーンOA支援機能（即時OA対応）
- ✓ 根拠データの管理を支援する機能
- ✓ 利用者認証



パターン2 学内で運用する研究データ管理基盤GRDMを利用して、論文化した成果をJAIRO Cloudに送り（本人）、確認（本人または図書館等）して公開

- ✓ GRDM、JAIRO Cloud導入支援
- ✓ グリーンOA支援機能（即時OA対応）
- ✓ 利用者認証



パターン3 JAIRO Cloudで公開した論文のOA状況を確認し、未登録者へリマインド

- ✓ OAモニター機能（公開/未公開、通知機能等）



■ 大学等機関での運用・利用促進に向けた対話の取り組み

■ 大学ICT・運用者向け

- NIIサービス説明会
 - ・ 札幌 40名、福岡 59名
- AXIES 2024次大会「NIIの学術情報基盤を考える」
現地参加 約100名
- 研究データ基盤EXPO「研究データ基盤構築とそのエコシステム化を考えるシンポジウム」予定、245名

組織インフラやデータベースとのNII RDCの連携に関する課題や運用にかかる情報交流

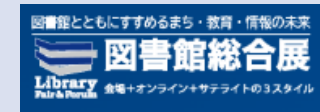
■ 研究者向け

- NIIが主催、共催、講演した公開イベント のべ2000名
- 日本学術会議「情報学シンポジウムー研究データ基盤の確立とその将来展望」、約390名
- 学術データ管理や運用に関するシンポジウム・セミナー
 - ・ 東京 1076名、北陸 約190名、東北 146名、中国・四国 約143名、東海 約93名

コンソーシアム会員間での活用へ向けた議論、特にデータ管理・公開における課題や現場のノウハウを共有

■ サービス運用者向け

- 図書館総合展「NIIフォーラム」、のべ1459名



NIIフォーラム 1

11/7(木)10:30-12:00
会場：アネックスホールF206
(第6会場)
LIVE配信あり
CiNii Research
：統合と展開

NIIフォーラム 2

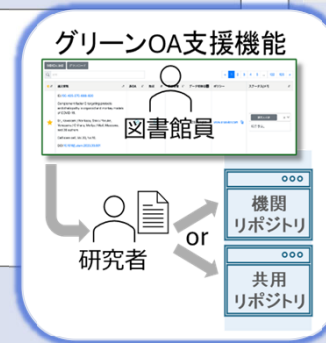
11/7(木)13:00-14:30
会場：アネックスホールF206
(第6会場)
LIVE配信あり
JAIRO Cloudで
オープンアクセスを
実践しよう！

NIIフォーラム 3

11/18(月)14:00-15:30
※LIVE配信
DXで実現する
これからの大学図書館
～学術情報システムを支える
仕組みや制度を捉え直す～

筑波大、東京学芸大、神戸大から事例発表
NIIから図書館向け機能を紹介

図書館を中心とする機関リポジトリの運用、
即時OAの実施に関する機能の使い方、
学内研究者への啓発ノウハウを共有



■ 共通

- NIIオープンフォーラム、研究基盤関連セッション 約684名



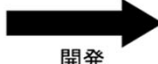
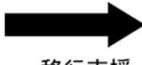
神戸大、東大、筑波大、北大、東京学芸大から事例発表
NIIから全体構想・機能等を紹介、フランスから基調講演「グリーンOA成功の秘訣」等

- NIIウェビナー「オープンアクセス加速化事業におけるNIIの開発内容を説明する会」、第1回 591名、第2回予定あり
- Japan Open Science Summit 2024、OA政策、権利保持戦略等に関するセッション 約1256名、YouTube再生回数（5日間合計、延べ）1413回

日本政府のOA・OS政策や海外状況、活用に関する情報交流

NII RDCのOA加速化事業の今後予定

■（今後の年次計画）5カ年程度の計画

取組内容	2024年度 (令和6)	2025年度 (令和7)	2026年度 (令和8)	2027年度 (令和9)	2028年度 (令和10)
1. 機能開発（課題1～3） 課題1：論文のグリーンOA促進支援機能の高度化、 課題2：GakuNin RDMと連携した根拠データの管理・公開機能の高度化、 課題3：エビデンスに基づいたポリシー・戦略の策定を可能にするモニタリング機能の整備	 開発	試験参加機関 ・JC導入(R6) ・OAアシスト、ダッシュボード(R6-7) ・データ管理GRDM-リポジトリJC連携(R7)			
2. 実装、運用（課題1～3） 上記1で開発した機能の実装と運用		内部試験 外部試験 安全評価 内部運用試験 リリース判定 政府システムとの連携 仕様 方式 試験、評価等			
3. 認証機能整備（課題4） 研究者による積極的な参画を実現する高セキュアな認証基盤の整備	 環境構築	第三四半期～ 順次に運用開始			
4. 認証機能運用（課題4） IdPホスティングサービスの運用		ほか並行して NII説明会 意見集約 情報発信など 6月 NII Open Forum 10月 図書館総合展 11月 NII事業説明会 12月 AXIES ほかWebinar等			
5. JAIRO Cloud 移行支援（課題5） 独自システムからJAIRO Cloudへの効率的な移行支援	 移行支援				

JAIRO Cloudのアップデート実施報告（FY2024）

(1) 2024/9/9 (月) アップデート (v1.0.7)

アプリケーションのバージョンをv0.9.26→v1.0.7にバージョンアップした。

<https://meatwiki.nii.ac.jp/confluence/pages/viewpage.action?pageId=157190597>

(2) 2024/12/17 (火) 計画メンテナンス (インフラアップデート)

Kubernetesおよび一部ミドルウェアをバージョンアップした。

(3) 2025/1/8 (水) 緊急メンテナンス (RabbitMQバージョンダウン)

12/17のアップデート後、統計情報をJAIRO Cloudのデータベースに格納する処理において遅延が発生する場合を確認したため、修正作業を実施した。

(4) 2025/2/25 (火) 修正アップデート (v1.0.7b)

アプリケーションのバージョンをv1.0.7→v1.0.7bにバージョンアップした。

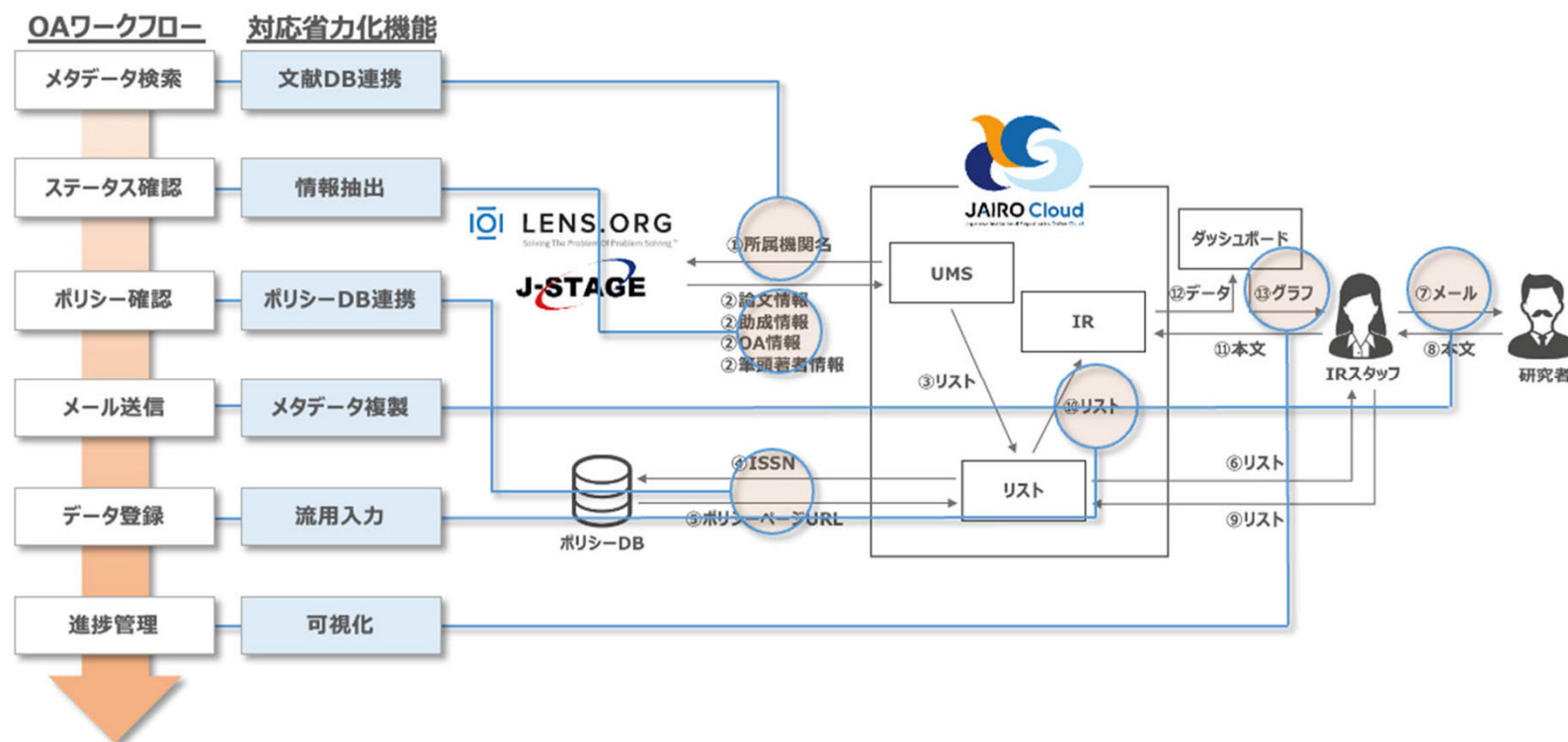
JAIRO Cloud (v1.0.7) で確認した不具合の解消を主目的として実施した。

<https://meatwiki.nii.ac.jp/confluence/pages/viewpage.action?pageId=176848950>

- V1.0.7b以降のアップデート時期は未定
- JAIRO Cloud作業部会やJAIRO Cloud共同運営本部と連携しながら進める

JAIRO Cloudの新機能および新サービスにかかる先行利用（FY2024）

- 30機関を対象に先行利用を実施（2024年10月～11月）
- フィードバックにもとづく改修を実施予定（2024年12月～2025年9月）



「機関リポジトリへの研究者によるセルフアーカイブ」 を実現するための機能

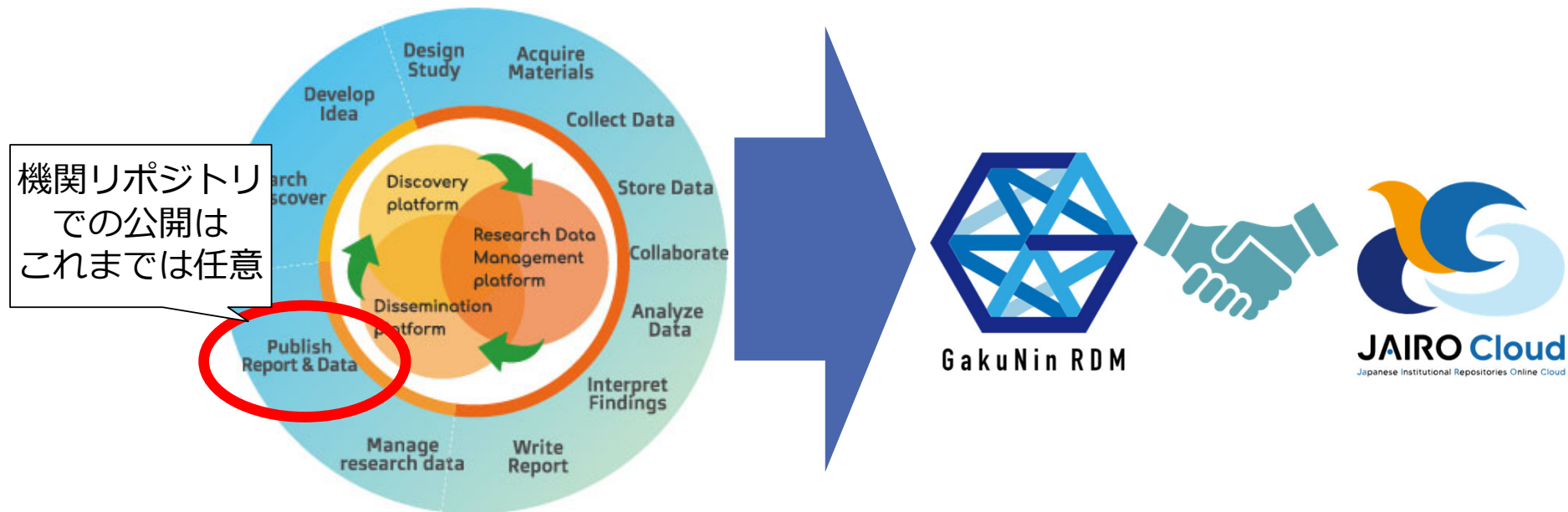
一部公的資金による研究成果について
機関リポジトリへの掲載義務化



機関リポジトリへの掲載依頼が増加
図書館員を中心にした**従来の機関リポジトリ運用が困難**になることを予想

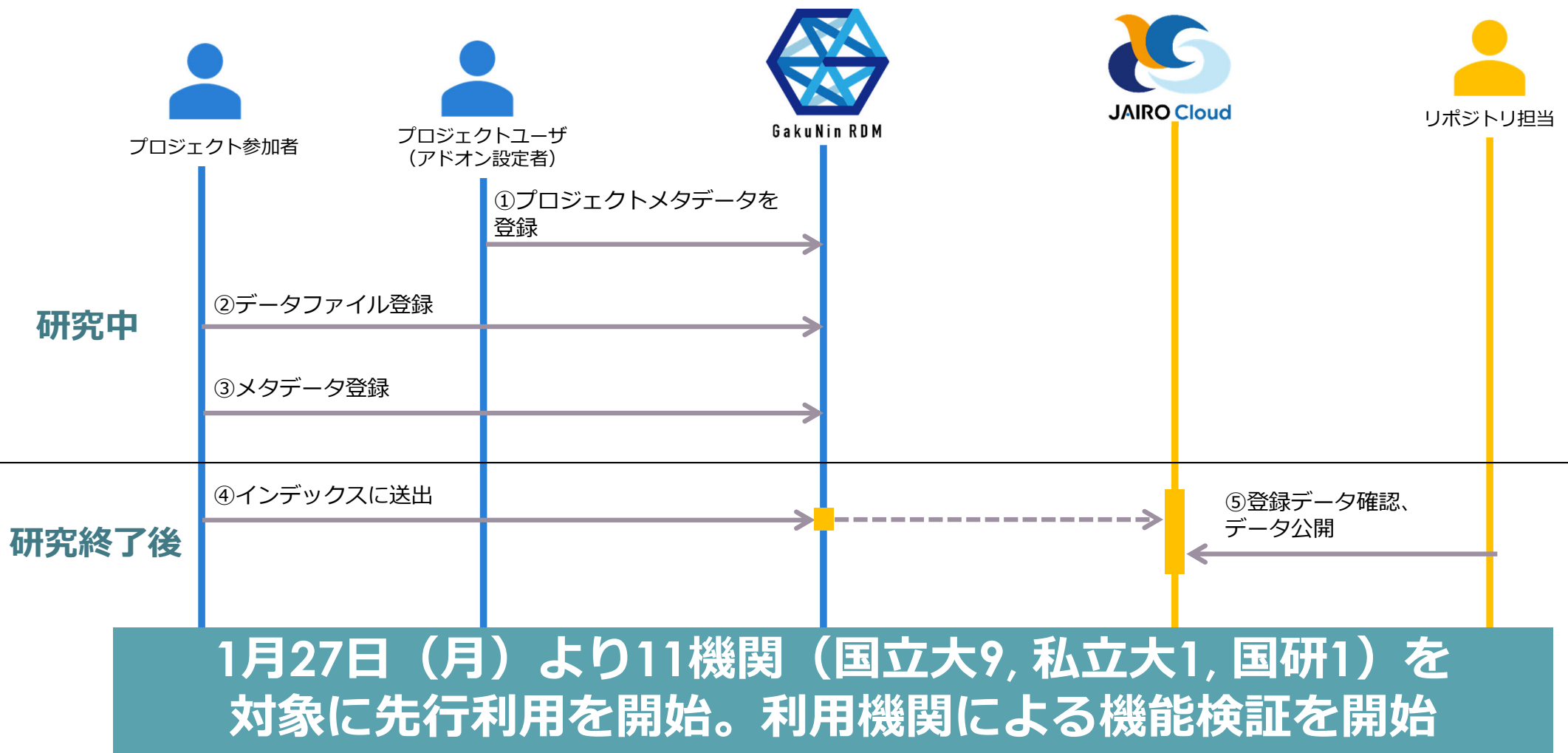
適正な運用を実現するためには研究者との作業分担が重要
＝研究者によるセルフアーカイブ

セルフアーカイブ = (これまでは) 研究活動に含まれていない作業



研究者とのインタフェースをもつGakuNin RDMと密連携することで研究活動の中でのセルフアーカイブを実現

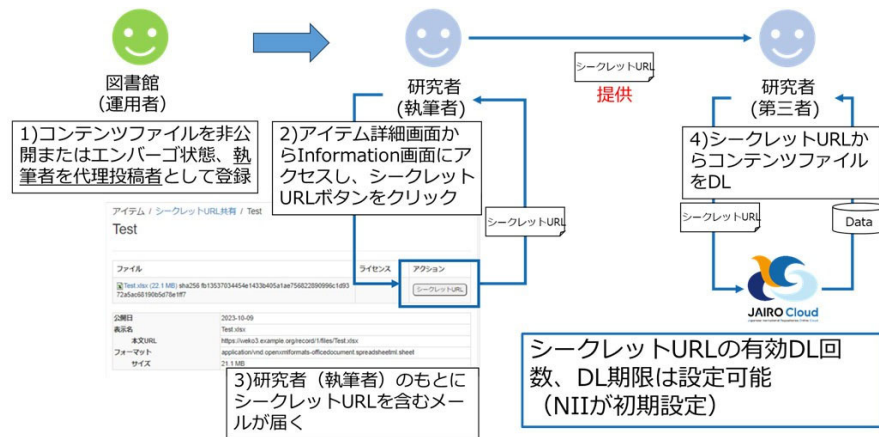
先行利用（2） GakuNin RDMとの連携



先行利用（3） 制限公開機能

✓ シークレットURL機能

査読者、またはジャーナル等に対して非公開、またはエンバゴ状態の論文及びエビデンスデータをシークレットURLを使って共有

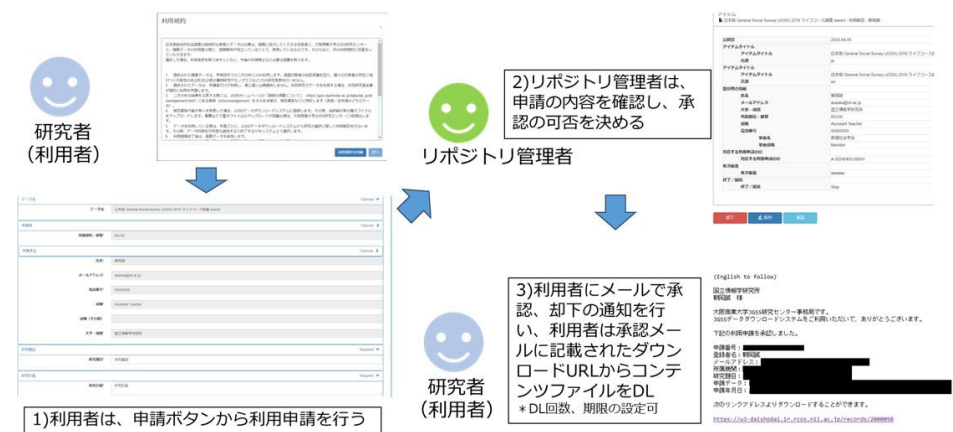


✓ 論文査読中の査読者へのエビデンスデータ提供など、研究者の論文投稿の支援ができる

- 6機関を対象に先行利用の実施（2024年11月～）
- フィードバックにもとづく改修を実施予定（2025年1月～6月）

✓ 利用申請機能

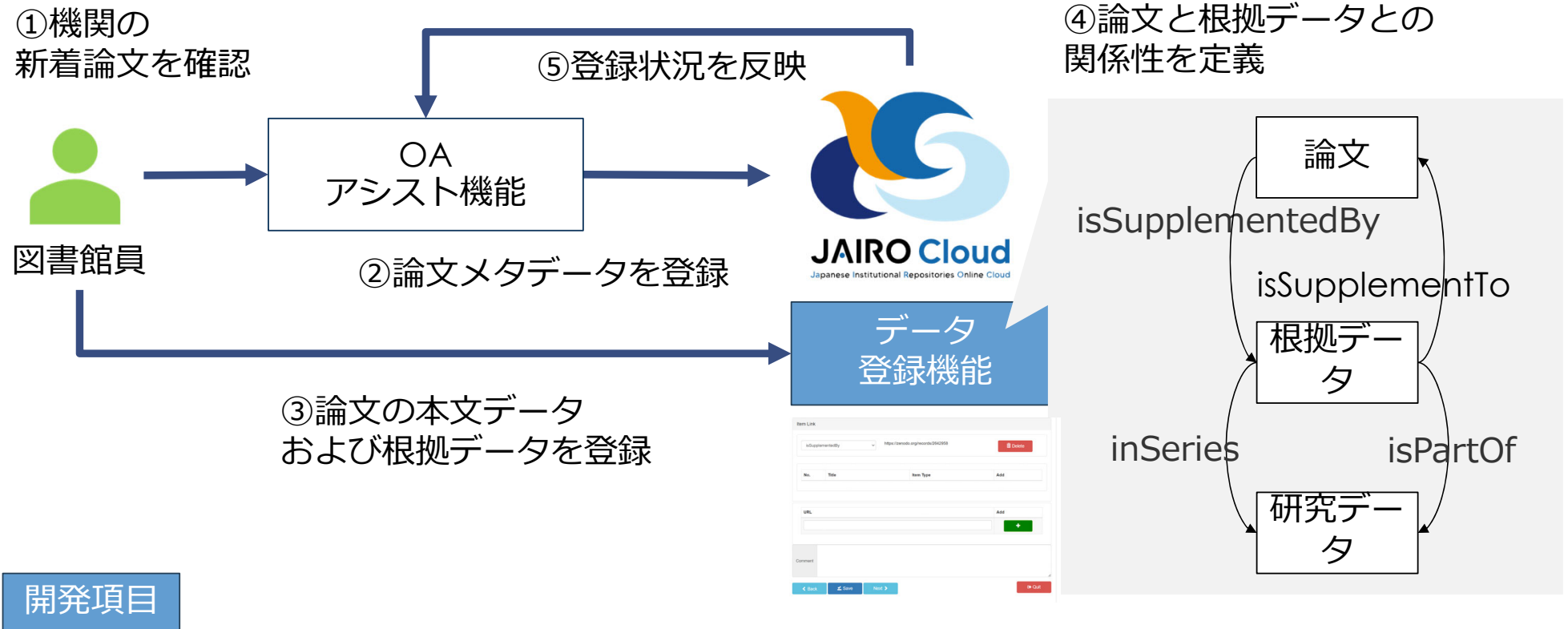
論文およびエビデンスデータにアクセス制限を設け、利用申請フォームを介した申請をもとに、条件を満たした利用者へのみ提供



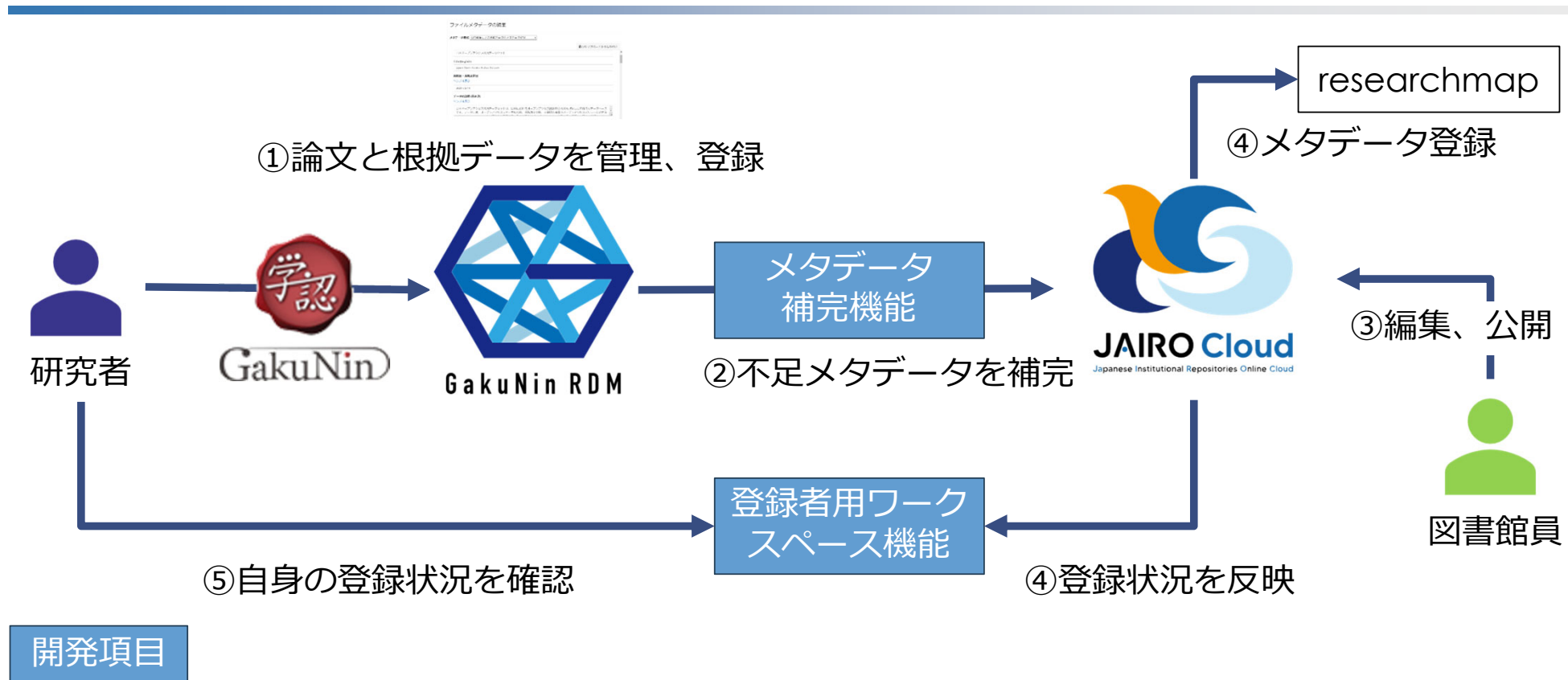
✓ 分野の慣習に基づいた研究データ提供が可能になり、機関リポジトリで提供できるコンテンツの幅が広がる

- 指定した2機関で先行利用を実施（2024年9月～）
- フィードバックにもとづく改修を実施予定（2025年1月～6月）

OA加速化事業によるJAIRO Cloud 今後の開発内容



従来の図書館員によるOA業務を効率化



研究者主導のOAを支援

- 一括エクスポート機能の安定化、画面表示の高速化を実現予定
- 未リリースの修正をマージ

安心して機能をご利用いただけるよう
鋭意開発中